

(2) Porgy and Bess

オペラ『ポーギーとベス』— 2020年 MET Live Viewing の観劇評

6月30日(火) 11:00 - 2:40 ミッドランドスクエアシネマで『ポーギーとベス』を観た。2020年の上演演目で最も期待していたこの作品は4月(4/3-4/9)に上映だったが、コロナ感染拡大の外出自粛で行けず、6月の映画館再開に伴う再上映で観た。初演以来80年以上、METでは1985年の初演から30年ぶりの再演というPorgy and Bess(新演出)^[1]の上映はなかなかの人気の、平日11時間演前で、軽く30人の観客がいたと思う。

この公演は、元来、イギリス国立オペラ(English National Opera)[ENOと略称。Royal Opera House Covent Garden (ROH) に対し英語上演]、オランダ国立オペラ劇場(Dutch National Opera)とMETの3歌劇場の共同制作のプロダクションである。ENOの本拠地London Coliseum (Coliseum Theatre)で2018年10/29に初演が行われ、DNOは2019年1月初演、METは2019年9/23に初演された^[2]。共同制作ゆえに3歌劇場とも同一のプロダクションであったが、指揮はそれぞれの歌劇場により異なるので、各指揮者について簡単に言及したい。

ロンドン公演の指揮者はイギリス人John Wilson(1972生)。Royal College of Music出身で、現在同大学(国立)で教える。この公演では当然English National Opera Orchestraを指揮するが、イギリスの有名交響楽団を頻繁に指揮し、近年は、Glyndebourne Touring CompanyのオペラMadama Butterfly(2016)も指揮し好評だった。一方、Royal Albert Hallで行われる夏の祭典BBC Promsで、2007年以来毎年American Musicalのsemi-staged concertを指揮し、チケットが最初に売り切れる人気である。そこでこのPorgy and Bessのロンドン公演も、彼のガーシュイン音楽に観客は熱狂したとのこと。

オランダはアメリカ人James Gaffigan(New York, 1979生。Rice University)の指揮でDutch National Opera専属のthe Netherlands Philharmonic Orchestraとthe Netherlands Chamber Orchestraの演奏である。2004年Sir Georg Solti国際指揮者コンクール優勝以来、Gaffiganは世界中で活躍している。Lucerne Symphony Orchestra(2011-2021)の首席指揮者を務めつつ、パリ、オペラ座を始め有名劇場から指揮依頼が殺到する今一番人気の若手指揮者であり、2018年『ラ・ボエーム』でMETに初登場した(若干39歳)。

METの指揮はアメリカ人David Robertson(1958, California生)。LondonのRoyal Academy of Musicで学んで欧州で活躍し、Orchestra National de Lyon(2000-2004)の音楽監督の後、2005年St Louis Symphony Orchestraの指揮者になり、2018年まで音楽監督を務めた。現在はSydney Symphony Orchestraの首席指揮者。2018年からJulliard音楽院で指揮法を教える。長い経歴をもつRobertsonは、これまでMETでモーツァルトのオペラの他、1996年に現代オペラ『マクロプルス事件』(The Makropulos Case)、2012年『ビリー・バッド』(Billy Budd)なども指揮している。New York Philに次いで歴史あるSt Louis交響楽団は、Leonard Slatkin(1944生)の音楽監督時代(1979-1996)に世界的評価を高めた^[3]。St Louis交響楽団は、Opera Theatre of St Louisのオペラ公演の演奏を担当する。従って、このPorgy and Bess公演は、指揮者と演出家が共にSt Louis

に關係する。

共同制作の中核となる演出は、Opera Theatre of Saint Louis の芸術監督 James Robinson (2008-present) が 3 歌劇場とも担当した。Robinson は、2018 年 OTSL の新演出のオペラ『レジーナ』(Regina, Marc Blitzstein 作曲)^[4] で話題を集めた。OTSL の他 Houston Grand Opera, San Francisco Opera など多くの古典オペラと現代作品を演出し、その他の歌劇場でも現代オペラ Alice in Wonderland (by Chin アメリカ初演)、The Golden Ticket (by Ash 世界初演) などの新演出を担っている。中でも Houston Grand Opera の Nixon in China 世界初演 (1987, Adams 作曲、Peter Sellers 演出) に続き、2011 年 Houston と関係の深い Robinson 自身の新演出で再演が行われた。Houston と OTSL 他の多くの歌劇場との共同制作により、Nixon in China 再演 (2011-2) を Opera Canada から始め、全米の多くの歌劇場で公演した Robinson は、現代オペラ演出家として広く知られた。今回が 3 歌劇場ともデビューだが、ロンドンでは 2018 年 Royal Festival Hall で Marin Alsop 指揮 London Symphony Orchestra による Bernstein のオラトリオ “Mass” の演出を担当した。

長年オペラを書こうと希望していた George Gershwin は、DuBose Heyward の小説 Porgy (1925 刊) を読んで、好みのオペラの題材だと思い、1926 年 Heyward にオペラ制作を提案した。だが、Heyward の妻 Dorothy (劇作家) が、Porgy を脚本化して Theatre Guild^[5] で上演を準備中の時で、話は中断された。Porgy の上演 (1927) は成功し、1933 年に Gershwin 作曲と Heyward 台本によるオペラ制作の契約を Theatre Guild と結んだ。

1934 年にオペラの背景の地域の地方色と音楽を知り、その雰囲気の中で作曲するため、Gershwin は Charleston に出かけ、まず Cabbage Row (Catfish Row のモデル) を訪ねた。そして Folly 島の Heyward の夏の別荘に近い小さな一軒家を借り画家の従弟と共に夏の間滞在した。Gershwin は午前中作曲し、午後は Heyward の別荘に行き、台本を二人で検討し、この滞りで 1 幕をかなり仕上げた。この地域のアフリカ系アメリカ人たち (African Americans)^[6] の歌う民謡や教会音楽を聞くために、Heyward と彼らの住む地域一帯を旅行し、どこでも黒人教会で音楽が聞こえれば、立ち止まって聞き惚れ、教会に入って熱心に聞き入った。一度は教会の霊歌の ‘shouting’ (霊歌の伴奏として歌いながら手足でリズムを取る [dance]) に惹きつけられ、その部分を黒人達と一緒に歌って Heyward を驚かせた。こうした経験はオペラ作曲に大きな収穫となった。だが彼らの歌う民俗音楽をそのままオペラの曲に使うのではなく、この地方の民俗性を取り入れ ‘my own spirituals and folk songs’ を Gershwin が作曲し、オペラの音楽とした。Gershwin は述べる「Porgy and Bess は folk tale だ。住民は当然 folk music を歌う。だがオペラが統一された一つの作品となるように、黒人の歌う folksong や folk music を使わないで、私自身の作曲の spirituals や folk songs を書いた。だがそれらは相変わらずオペラ形式で書かれた folk music で、Porgy and Bess は folk opera になる」^[7]。初演当時、Gershwin の作曲した曲では、地域の民謡そのものでないから、folk opera と言えないと否定された。しかし Gershwin の言う folk music は、ある地方の富裕でない普通の人々 (Charleston 地方の貧乏な黒人) の音楽を指す。アメリカのある地域の人々が歌う民謡そ

のものでなく Gershwin が作曲した曲だからこそ、新しいアメリカ音楽を使ったアメリカのオペラになった。

Gershwin 家はロシアからの移民でハーレムに住み、父は転々と職を変える労働者であったが、兄 Ira のためにピアノを買い、Ira は New York 市立大学への進学校へ進み、そして市立大で学んだ事からみると、極く貧困というわけでもない。Gershwin 自身は勉強もせず、ハーレムの街を遊び回っていた。Gershwin 家は信仰深い方ではなかったが、ハーレムのユダヤ教の教会音楽を聞き、特に Yiddish musical theatre の音楽は好きで、よく通った。10 歳の時近所の友達 Maxie Rosenzweig (長じて violin の名手 Max Rosen になる) の violin 独奏会を聴きに行き、彼の演奏と音楽に魅惑された。これがクラシック音楽との最初の衝撃的な出会いだった。一方では近所の黒人の友達やハーレムの酒場からの音楽に聞き入り、真似して遊んでいたため、ピアノが家に届いた日に、皆の知っている歌を淀みなく弾いて家族を驚かせた。11 歳でピアノを正式に習い始めるが、1911 年に一流の音楽教師 Charles Hambitzer^[8] につくまで、良い先生を探し回った。彼に天才児と言われ、Debussy や Ravel を習い、生涯音楽を教えてもらい、助言ももらった。Hambitzer に紹介され Edward Kilenyi に音楽理論や和声、作曲の専門的指導を受けた。Kilenyi は Gershwin を優秀な pianist に育て、音楽会に連れて行くなど古典音楽の教養も身につかせた。つまり幼少時からアフリカ系黒人の音楽とクラシックとの両方に惹きつけられ、両方に親しんでいた。高校を中退し 15 歳で、Tin Pan Alley の piano 弾きになる (最少年齢の雇用)。ピアノで曲を弾いてみせてその楽譜を販売する Remick's に勤め、たちまち優秀なピアノ弾きとして知られ、Broadway のオペレッタ作曲家 Kern と Romberg と知り合い、Romberg のレビューに曲を提供した。20 世紀初頭からの人気の黒人音楽の ragtime のリズム、blues 音楽や jazz の syncopation、そしてダンスしやすい 4/4 拍子の曲が、New York から全米へと人気になった。欧州からの移民のアメリカ人が黒人音楽の特徴を使い、欧州の古典音楽 (classic) など様々な伝統を混合し融合し作曲した新しい音楽が、melting pot のアメリカを表す新しいアメリカ音楽となった。この新しい音楽を用いた Broadway show (レビュー) が、未だ silent の映画を超えて、大衆文化をリードしていた。当時始まったラジオ放送でも黒人の演奏する jazz 音楽が人気となり、さらに新しいアメリカ音楽を広く jazz と呼び、この踊りやすい音楽が大流行した。Jazz band が演奏する dance hall で、誰も彼も jazz dance に浮かれた (狂乱の 20 年代)。

この Jazz Age に、Tin Pan Alley を辞めた 16 歳の Gershwin は songwriter となり、Broadway の劇場に曲を提供するようになる。彼の書いた jazz のリズムと彼独特の前へと進み続ける躍動感ある “Swanee” (1919) が最初のヒットで、Al Jolson が歌って大成功した。Gershwin 独特のリズムと旋律の新しい音楽により、musical comedy の人気作曲家となった。1922 年には、当時流行の George White's Scandal というレビューに、Buddy De Sylva (歌詞 & text) との共作で、ハーレムの黒人の生活を描いた jazz を用いた 1 幕の短いヴェリズモ・オペラ Blue Monday (Opera à la Afro-American) を提供した (オケはハーレムの黒人の友人 Will Vodery が編曲)^[9]。これは短い (24 分) ものだが、ジャズ音楽と本格的なクラシックのオペラの境界に取り組み Gershwin の試みを明瞭にしており、Porgy and Bess の先駆けである。今日では ‘Rhapsody in Blue’ の起源となる音

楽であるとされる。このオペラは New Haven の試演では喝采を受けたが、New York では不評で、George White は 1 晩でこの mock-opera を降ろしてしまった。

このオペラ初演のオケ演奏を担当した Paul Whiteman は、Gershwin の Afro-American 風の jazz 音楽をハーレム風と感心し、1925 年、管弦楽を Grofé に編曲させ、‘ Jazz opera : 135 Street ’ と名前を変え彼の jazzband の演奏で、Carnegie Hall jazz concert の演目に入れた。Whiteman は当時白人ながら King of Jazz と呼ばれ、1920 年代から 30 年代の間中、全米 1 の jazzman と評判で、彼の jazz band の演奏で踊りたい人々に大人気だった。この禁酒法時代に、隠れ酒場で黒人の少数の musician が本能のままに即興で作っていくのが元々の jazz 音楽であった。それに反し、Whiteman は白人だけの演奏者で白人だけの明るい dance hall で、白人むけに大編成の band 用に arrange して演奏して人気を得た。それゆえ黒人 jazzmen からはまず白人の jazz 演奏自体に反発を受け、本来黒人のもの（jazz 音楽）を、白人受けを狙った編曲での演奏は、黒人の音楽の即興性や野性的音楽性を捨て、本物の jazz と言えないと嫌った。一方、Whiteman は、パリで classic 音楽家達が jazz をとり入れて作曲しているように、アメリカでも jazz 音楽の地位を高めたいと目指していた（パリでは、Satie, Ravel, Millhaud などの Modernists が jazz を取り入れて活躍）。

1924 年、Whiteman は jazz と古典音楽が芸術的に融合されたアメリカ音楽を披露する現代的音楽会（An Experiment in Modern Music）を企画し^[10]、Gershwin に作曲と出演を依頼した。これは Gershwin にとって、オペラ “ Blue Monday ” の試みを進める契機となった。1924 年 2 月の Aelian Hall（1100 席）での演奏会で、Paul Whiteman の jazz band 演奏をバックに Gershwin 自身の作曲したピアノ協奏曲 Rhapsody in Blue を（オケの演奏総譜は Ferde Grofé の編曲）、自らピアノを弾いて大喝采をうけた。絶えず動き進行する現代的な Gershwin の音楽は大都会 New York を彷彿させ、さらに躍動的な華麗なピアノ演奏技術が眼を奪い、ピアノの即興的独奏が魅惑的で、観客を熱狂させた^[11]。これにより Gershwin は classic 音楽と jazz を融合する作曲家・演奏家として世界的名声を得た。大衆の熱狂的喝采と名声を得たものの、Porgy and Bess の初演時と同様、プロの音楽批評家達は冷淡で、独学のピアノ弾きでオケの総譜もできないと Gershwin の音楽性を認めず、悪評だった。そこで Gershwin は、クラシック音楽家として認められるようにピアノ協奏曲の総譜を自分で書きたいと思い、Blue Monday よりももっと本格的なオペラを書きたいと思い、そのために努力を重ねることになった。当然、ピアノを習った Hambitzer や Kilenyi にも指導を受け、その他多くの作曲家に指導を仰いだが実らず、1932 年から音楽理論家 Joseph Schillinger に作曲理論を個人指導してもらった。

Gershwin は、このアフリカ系の音楽を融合した新しいアメリカ音楽を使って、クラシックのオペラ音楽の形式の中に、1920 年代のアメリカの一地域 Charleston の沿岸地域に住む黒人たちを題材にアメリカのオペラを書こうとした。彼らの生活はアメリカの歴史と文化を表している Americana である^[12]。

東南部の港 Charleston^[13] は、奴隷貿易開始（1700 年頃）以来、西アフリカからの黒人奴隷の主要な輸入港であり、彼らの最初の住処となった。そこでこの西アフリカ人達（Gullah people）は、彼

らの母国（西アフリカ Angola）の言語の文法構造に英語の単語を混ぜた「ガラー」（Gullah）という言葉仲間同士で使った¹⁴⁴。黒人人口が白人を常に上回る Charleston で、農園に近い沿岸地域に住む黒人だけの仲間の間では、この西アフリカ系クレオール語の Gullah-English が、20 世紀になっても維持されていた。Heyward は詩人だったが、生活のために毎日、黒人の集合住宅 Cabbage Row（Catfish Row のモデル）を通り、自宅から保険事務所に通勤していた。彼の家系は独立宣言の署名者（独立 13 州の代表）の一人を祖先にもつ Charleston の貴族的階級で、代々プランテーションの農園主だったので、Heyward も生まれると Gullah 語を話す黒人女性乳母に育てられ、彼女から Gullah の人々の話を聞いて育った。Heyward より富裕な農園主の家庭に育った彼の母は Gullah を話す黒人奴隷達に囲まれて育ち、長じては詩人となり、Gullah の人々について講演し、Charleston 観光客にも Gullah の説明をするほどになった。山羊の車で行き来する乞食は、Charleston の街で良く知られ新聞記事にもなり、Heyward も街角で座っている乞食を見知っていた。Heyward が Porgy としてこの足萎えの乞食の話の小説に書き始めた時、African Americans が寄り集まって住む集合住宅 Cabbage Row の雰囲気、背景として相応しいと考え、Porgy をこの集合住宅の住人と設定した。ただし、Cabbage Row がモデルだが、その場所を漁師達も住むのに適切な港近くに移し、Catfish Row と名付けた。こうして Heyward は African American の足萎えの乞食（Porgy のモデル）の視点によって Cabbage Row の Gullah 語を話す人々の登場する日常の物語『ポーギ』（原作小説 Porgy）を書いた。この原作に従い、Gullah 語の歌詞、レチタを用い、オペラは書かれた。

このオペラでは Gullah 語はオペラの地方色を表す重要な要素だった。Gershwin が初演 Porgy 役に選んだ Todd Duncan¹⁴⁵ は、Howard 大学（Washington, DC にある黒人大学）で声楽を教えていた（1930-1945）。従ってイタリア・オペラを歌った黒人として Gershwin に推薦されたものの、Duncan は Charleston に住む黒人の話す Gullah 語を知らず、オペラの Gullah の歌詞やレチタを上手く歌えなかった。Gershwin は Duncan を Charleston に連れて行き、Gullah 語を覚えさせるため滞りさせた。また、初演の練習で Gullah が歌えない他の歌手にも Gershwin が自ら指導した。Gershwin は全ての初演 cast は、舞台経験がなくとも、オペラ歌手として歌える音楽教育を受けた黒人と決め、以降も白人歌手や黒人 jazz 流行歌手のオペラ出演を禁じた。有名な Eva Jesseye の聖歌隊が歌いながら踊るのを Gershwin は感嘆し喜び、Mamoulien は、楽譜を読み込んで音楽からドラマを考え歌手やコーラスに演技指導し、音楽とドラマが密接で動きのある舞台を作った。こうして Gershwin 自身の好みの愛すべきオペラができ、New York 初演では成功とならなかったが、彼はいつかオペラ史に残る作品となると信じていた。

初演前の大評判の Boston 試演（Colonial Theatre, 1935）で、オペラが 4 時間近くもかかり長すぎると分かり、Gershwin は Broadway の観客のために 3 時間以内になるよう短縮や改訂を行った。初演は、Broadway の Alvin Theatre（1935, 10 月）で、演出 Rouben Mamoulian、Alexander Smallens 指揮、合唱 Eva Jesseye Choir、装置 Sergei Soudeikine で、Theatre Guild の制作だった¹⁴⁶。Broadway の初演チケット前売りは大人気で、初演当日は華やかな社交界や著名人が集まり大好評の初日舞台だったが、劇評が良くなく開演間もなく観客数が激減した。オペラ界、演劇界、

Broadway など多くの劇場批評家からの部分的賞賛の批評も数多くあったのだが、絶賛された Heyward の演劇 Porgy と異なり、songwriter の Gershwin ではオペラを目指すのは無理ということから黒人オペラはオペラではないとか、オペラのオケ音楽は本人の作曲でないとか、逆に Gershwin の jazz 風アリアや聖歌は本物ではないという批判もあった。さらに権威ある New York Times の劇評、音楽評が厳しかったことが、見る価値のない公演と思わされた一般観客の客足を遠ざけた。Gershwin のクラシック音楽形式を踏まえたオペラ作曲を信じられず、批判で終わった。初演の晩の大喝采と感動的なカーテンコールの賞賛の嵐からは思いもよらない、大きな失望だった^[17]。こうした偏見にみちた批評のため観客が減り、契約の 124 公演で打ち切れ、後にツアーが行われた (1936 & 1938)。オペラ初演の不評と公演の不人気は、これまで songwriter から jazz の影響をうけたピアノ協奏曲へと成功してきた Gershwin にとって最初の経験となった。

初演の結果、オペラ界では不評の大作と無視されたが、Broadway では musical の形式で上演したいという希望が多かった。Louis Armstrong と Ella Fitzgerald の全曲アルバム (jazz opera) や Miles Davis の演奏アルバムなど、数多くの有名黒人スターによる jazz の演奏は人気があり、レコードやラジオ放送により、その演奏が Gershwin の音楽として、オペラよりも人々に親しまれた。Gershwin の死後、1940 年著名な制作者 Cheryl Crawford は New Jersey で Porgy and Bess の舞台を制作し、公演は成功だった。この公演を見た Kee Shubert が、Broadway 進出を薦めた。そこで 1942 年 1 月、Broadway の Majestic Theater でオペラ Porgy and Bess 再演 (Jan-Sept, 1942) が行われた。この公演は 1935 年初演オペラの主役歌手 Todd Duncan と Anne Brown の他ほぼ全員の初演出演者が歌い、指揮は同じ Alexander Smallens で合唱も同じ Eva Jessye 監督による聖歌隊だった。他の crew は、Robert Ross 演出、Herbert Andrews 美術、Paul Du Post 衣装、Al West 舞台監督だった。だが、再演 (Broadway Revival) と言いながら、Crawford は Broadway 観客の好む Gershwin 流の musical に作り直そうとした。まず、レチタの多くは Heyward の劇 Porgy にもとづく台詞に代えられ、小さなオーケストラで、キャストも半分になり、レチタを減らし所要時間を短くし、Broadway の musical theatre に近いものにして、初演オペラとは大きく異なっていた。だが、これは大人気で Majestic 劇場は 286 公演、さらに全米ツアーで 9 ヶ月以上も公演が続き、300 万人以上の観客を得て、財政的にも Gershwin の初演オペラをはるかに凌駕した。この成功公演が、これ以降の Porgy and Bess 公演の形式に道をつけた。

1951 年、George Gershwin's Porgy & Bess 1951 Studio recording (Complete) というレコードが Columbia から出た。これは Lehman Engel 指揮による J. Rosamond Johnson Chorus と、オペラ歌手 Lawrence Winsters と Camila Williams (New York City Opera) が Porgy と Bess を歌うオペラ全曲盤のレコードであった。スタジオ録音であるが、この 1951 年録音時 (LP 版) の所要時間 (全 3 幕で 180 分) は最も初演オペラに近い^[18]。

このレコード録音と同じ頃、1952 年国立劇場協会 American National Theatre and Academy (ANTA) の総監督 Robert Breen がアメリカ政府の支援を得て Porgy and Bess の欧州親善公演を企画した。今度はオペラ歌手が歌う初演オペラに近い舞台公演であった。Alexander Smallens 指揮

で Crawford の再演版（短縮版）の音楽と、1942 年版よりレチタをずっと多く用いたオペラ演奏で、優れた歌手 William Warfield と Leontyne Price とが Porgy と Bess 役を、さらに Gershwin が作曲時に Sportin' Life として念頭においた Cab Calloway という配役の再演だった（140 分）。Breen が演出したが、英語の分からない欧州の人々にも理解されるようにと歌手達に演劇的に演じさせるため、台本やト書きにない演劇的な動きを指導し、様々な演出効果を用いて魅力的な舞台を造り上げた。その結果、どの歌劇場でもドラマと音楽が結びついた素晴らしい公演と拍手喝采を浴びた。まず、Dallas を始めとしてアメリカの数か所の歌劇場で試演公演した後、1952 年 8 月末、欧州親善ツアーに出発した。ウィーン、ベルリン、ロンドン、パリなどで公演し、各地でこのオペラは熱狂的に歓迎された。ロンドンではあまりの人気に 4 ヶ月も公演した。欧州ツアーの後 1953 年には、Broadway で凱旋公演が行われ、その後全米をツアーした。大好評の公演で、評判を知った各国から招待があり、欧州以外の国々へも出かけ、この後何回もの海外ツアーでほぼ世界中を訪れた。モントリオール、スカラ座、アテネ、ヴェニス、ベルギー、チューリヒ、カイロ、さらに冷戦中のモスクワでも大成功であった^[19]。

しかし、1959 年公開の Otto Preminger 監督（Andre Previn 音楽監督）の映画 Porgy and Bess は、再び musical 形式に戻り、映画俳優が Porgy と Bess を演じ、ドラマは台詞を使い、Sammy Davis Jr. (Sportin' Life 役) と Pearl Bailey (Maria 役) 以外の声はオペラ歌手（Porgy を Robert McFerrin、Bess を Adele Addison）が吹替え、人気のアリアだけが歌われた（138 分）。当然、Gershwin 財団には不評だった。

初演から 40 年経って、50 周年記念公演を MET がやるべきと思った Sharwin M. Goldman (American Ballet Theatre の総裁 1969-1974) が、Gershwin の original 楽譜を使ったオペラの完全上演を提案したが、MET は断った。そこで Lorin Maazel がレコードを計画と知って話を持ち掛けたが、Maazel は concert 形式を考えていて、完全版上演には乗らなかった。自ら制作をやるしかないと決意した Goldman は、バレエ関係で抑えた経費でやってくれる美術、照明、衣装のスタッフを見つけ、あとは共同制作を歌劇場にあたりながら、キャストのオーディションも始めた。やっと進取の気性に富んだと評判の Houston Grand Opera の総監督 David Gockley がこの企画に賛同して、Houston Opera が主催歌劇場として初演公演を担い、他の歌劇場でも上演という形で決まった。

次に Gockley が指揮者として Houston のまだ若い John DeMain を推薦し、次に DeMain の推薦で、Jack O'Brien が演出に決まった。二人とも 30 代の若さだったので、Gershwin が Boston 上演前から cut し、さらに New York 初演前に大幅に短縮・改訂し、その後も公演の度、cut された Gershwin の散逸する original の楽譜全部（450 頁）を検討して、上演を 3 時間に収める完全な総譜を作る仕事に精力的に取り組んだ。

その結果、1976 年 7 月、Houston Grand Opera で画期的オペラ公演が行われ、大成功した。これはこれまでの Gershwin を Musical 的に楽しむ傾向を覆し、現在まで続く大きな影響力をもつ公演になった。完全版という Goldmann の発意に沿って、指揮者 John DeMain が演出の Jack O'Brien の助けを得てまとめ上げた音楽での全曲を用いた公演だった^[20]。Jack O'Brien は楽譜を生かした芸

術的で演劇的な演出をした。つまり作曲家 Gershwin によって構想された完全なオペラが、初めてアメリカの歌劇場でオペラとして上演されたのだ。初めて完全なオペラを観て感動した観客や批評家は、これまで Gershwin の音楽を誤解してきたことに気づいた。Gershwin に夢見られた通り Porgy and Bess はアメリカ・オペラの名曲だと賞賛されることになった。

この大成功の公演の後、Philadelphia（市に疫病発生で損失）の後ほうまくいき、Washington, Ottawa, Boston（初演成功の Colonial Theatre）、そして New York, Uris Theater で1週間上演した。Porgy and Bess は見事なオペラだと NY 音楽批評家たちを感嘆させた。オペラながら、その年の Tony 賞 Best Musical 賞を受賞し、全米で TV 放映された（現在 TV 映像は1部アリアのみ）。

さらに公演の制作者 Shirwin M. Goldman は、公演の記念碑的 RCA Victor レコード（HGO Porgy & Bess の Broadway 公演中に studio 録音）の演出監督もした。この後 Goldman の企画により、少しキャストと構成も変えて国内ツアー、その後欧州ツアーも行われた。

1983年再び Goldman 制作で、大劇場 Radio City Music Hall から依頼され、巨大な舞台での公演（Jack O'Brien 演出・C. William Harwood 指揮）も大好評であった。続いて2000年 New York City Opera の制作担当重役になった Goldman 制作の NY City Opera 公演（2002）が、音楽監督 DeMain 指揮のもとで行われ（演出は Tazewell Thomson）、2002年、Live from Lincoln Center として PBS により全米放映された^[21]。（この公演の全編映像（154分）：youtube。TV 放映版 160分）。これは1976年以降でこれまでより多くの cut をしたが、Gershwin のレチタと orchestrations を使った。DeMain の指揮と若い優れた歌手たちもあって感動的な公演だった。

HGO の完全オペラ上演の趨勢に乗り、MET は初演 50 周年記念と銘うって、やっと1985年に再演（MET 初演）を行った。1985-1990年の間、James Levine 指揮により断続的に公演したが、54公演に終わった（Simon Estes & Grace Bumbry 主演）[youtube アリアの映像あり]。

Houston の総監督 David Gockley が San Francisco Opera の総監督になり（2005）、SFO でも Porgy & Bess 公演を企画した。2009年 Houston 公演での音楽監督 DeMain に指揮を依頼し、演出は SFO の artistic advisor（2005-11）で優れた演出家 Francesca Zambello^[22]（1956生）が担当し、好評であった（DVD 158分）。今回の MET の Porgy 役 Eric Owens がすばらしい。

1986年にイギリスで Glyndebourne Opera Festival の production として Trevor Nun 演出、Simon Rattle 指揮、London Philharmonic 演奏のオペラ公演があった。好評であったので、1993年に Trevor Nun はこの production の歌手たちに TV studio で演じさせ、TV 用に映画化した。この映像は BBC で放映され、米では PBS で放映された^[23]。公演の cast（Sir Willard White, Cynthia Hayman 他）は賞賛され、Nunn の舞台の前奏場面（初演の前奏を生かして街頭で乞食をする Porgy、ナイトクラブに移り、Jasbo Brown（Wayne Marshall 演奏）の blues のピアノ演奏に合わせダンスする男女、Bess がダンスした後 Sportin' Life から買った麻薬に耽る場面、綿花の集荷作業などの挿話のモニタージュ映像）は想像豊かな演出だと賞賛された。3時間の公演はレチタも含め Gershwin の音楽を維持し、ほぼ1935年初演の楽譜通りだった（DVD 184分。放映 TV 168分 Youtube で全編）。ただし studio 録画時、cast は歌わず、Glyndebourne のオケ演奏、アリア、コー

ラスの音声に唇を合わせた。Simon Rattle の斬新な演奏と映像が多少合わない所もある。1993 年 DVD で発売され、1959 年の映画より、はるかに優れていると評価された。さらに 2012 年、Berliner Philharmoniker の芸術監督 Rattle (1955 生) は、Porgy に Glyndebourne と同じ Willard White を配し、他も優れたオペラ歌手達が歌う盛観の Berlin Phil 公演 (演奏会形式) を行って好評であった^[24]。

2011 年にアメリカで Diane Paulus が制作翻案し演出した The Gershwin's Porgy and Bess が公演された。現代の観客にも訴えるようにオペラの筋も会話もスコアも変え、Suzan-Lori Parks が台本を翻案し、Paulus がレチタを話し言葉の台詞に変え、音楽も作曲家 Diedre L Murray による編曲という女性スタッフによって過激に新しく翻案された。つまり Musical 舞台化であった^[25]。さらにこの翻案は、Bess を演じる Audra McDonald の希望で、麻薬に溺れる娼婦を自ら嫌い、フェミニストのヒロインへと変化する Bess を新しく創造した。始め Cambridge での 3 シーズンの成功の後、2012 年 1 月に、Broadway の Richard Rogers Theatre で、Cambridge 公演での役柄を踏襲した主要 cast で、American Repertory Theatre によって上演された。主役 Audra McDonald は Tony 賞を受賞したが (主演女優賞)、公演批評は芳しくなかった。

ところが、2014 年夏、ロンドンの Open Air Theatre, Regents Park で、この Diana Paulus 翻案の Porgy and Bess 公演が行われ、大成功だった (17 July-23 August, 2014)。

さらに、2012 年に遡り、Christine Crouse 演出による Cape Town Opera のイギリス公演 Porgy and Bess (南アフリカのapartheidにおいて抑圧されている黒人達という翻案) が、アフリカの Zulu 語の台詞を用い公演され (台詞から Musical とも言える)、大評判になった。どちらも社会的意識の改革を訴える時代にあわせた翻案であることが注目される^[26]。

長い間、この作品がオペラとして上演されるべきか、それともミュージカルなのか議論され続け、2 つの版が上演されてきたものの、やっと今、オペラ版が正統と考えられるようになった。今回の 2019 年 MET 公演はオペラ版である。もっとも原曲は長すぎるので短縮したと演出家 James Robinson は語る。Live Viewing では休憩込み 3 時間 40 分の上映であった (舞台は 1 幕が 100 分。2 幕が 70 分。CD では 163 分)。ロンドン初演に続き大成功のアムステルダム公演を経て、MET でもシーズン開幕公演として期待も高まり、大成功の公演となった。

今回の Porgy and Bess の舞台は、まず、美術の Michael Yeargan の材木の枠組みだけの壁がない家々 (集合住宅) が中庭をとり囲む Catfish Row の簡素で斬新な装置が印象的で、賞賛を浴びた。紗幕の映像は高床式のような家と見え、また紗幕使用時の幕間には、背景音響として海の波が寄せては返す音が入り、海に浮かんでいる家のように見えた。1920 年代南カロライナ州の港町 Charleston の海辺のアフリカ系アメリカ人たち (以降簡略に英語 African American[s] や黒人も用いる) の住む家である。綿花摘みや漁師など多くの貧しい労働者達の家族が住んでいて、椅子、テーブル、ベッドなどの小道具で部屋は設えられているが、壁なしなので、すべての家が見える。あえて壁なしにした装置は、場面転換でセット全体が回転すると、観客に見るべき場面を正面に見せてくれる。1920

年代と言えば、jazz age で、都会の白人アメリカ人が黒人音楽のダンス Charleston に夢中になっていた時代であった。だがこの Catfish Row には、African American の労働者たちだけが、貧しく暮らしている。元来、米作や綿花栽培の労働力としての奴隷輸入が始まった時、沿岸低地帯の栽培農園の湿潤で暑い気候に耐えられない白人農園主は、海辺の農園近辺に奴隷を居住させ、自分達は農園から離れた高台に住んだ。African American の奴隷達だけが、沿岸の低地や海辺の小島に寄り集まって住んだ。舞台の Catfish Row はこの貧しい African Americans だけのゲットーである。奴隷解放後、黒人は白人農園主の相変わらずの搾取により奴隷時代より貧しくなり、1920 年代に、第 1 次世界大戦の戦争特需により莫大な利益を独占したアメリカは好景気にわいていたが、黒人にとっては「どん底」の暮らしとなっていた。そこで南部黒人の大都会への大移動が始まるのだが、大移動はこの舞台の最後に関係する^[27]。

衣装デザイナー Catherine Zuber (The King and I (2018, Tony 賞) の衣装) は、1920 年代の貧しい人々の粗末な日常着をカラフルな縞模様などの木綿のシャツとズボン姿 (or 長い丈のスカート) で表している。かなりの男性がチョッキも着ている。また男性ズボンはジーンズでなく、普通の木綿や麻の生地である。ヒロイン Bess の華やかな赤いドレスは、当時流行の緩やかな服で、胸や脚をちらと露わにみせるスタイルである。ただ一人、New York のハーレムと Charleston を行き来する麻薬売人 Sportin' Life だけが、明るい茶色の上質のスーツを着こなしている。照明デザインの Donald Holder は、この Catfish Row の朝から昼、晩、夜明けなどを巧みに照明で変化づけていた。また場面転換の折、紗幕があり Projection Design の Luke Halls (映像美術と紗幕の担当) の墨絵のような Catfish Row を表す絵が効果をあげていた。ただし、youtube の ENO 公演映像を見る限りでは、MET と同じ Donald Holder と Luke Halls 担当でも、ENO の舞台は明るい空色の空と海が映え、衣装もブルーの光と影が目立ち、全体に黒い影が多い MET より明るい舞台であった。

共同制作ながら、ダンス振付だけは 2 人の African Americans により別々の振付がなされた。ロンドンとオランダはアメリカ現代ダンスのヴェテラン Dianne McIntyre (1946 生) による。

MET の振付は若く舞台での経歴のまだ無い TV や映画で人気のカミーユ・A. ブラウン (Camille A. Brown, 1979 生)^[28] である。実はダンスこそがこのプロダクションの華である。軽快で動きの激しいアフリカ系ダンスやジャズ・ダンスが、斬新でダイナミックな Gershwin の音楽を背景にメロドラマのオペラを、生き生きとした舞台に変化させていた。このダンスこそが、Charleston の African Americans の生活を描きたいという Gershwin の意図を生かしていた。今回、Camille A. Brown の仕事に最も感嘆した。彼女は演出家 Robinson と並んで共同演出家 (co-director) であり、彼女の斬新な振付が見事な舞台を造りだしている。幕間の映像は、彼女がダンサーだけでなく、歌手やコーラスなどの動きも振付して、その動きを指導し練習させていて興味深かった。別の幕間 interview では、Camille が Sportin' Life は蛇、Crown は犬の動きをしなさいと性格づけし、それに従って Ballentine は蛇のように、くねくねと抜け目なくずる賢く動き、歌い、ダンスし、演技するように努めたと言って、観客を笑わせた。そうした性格づけを考えた上の動きは振付以上に舞台の演劇的效果を高めている。今回の舞台では、歌手達が Gershwin の作曲した歌やレチタを歌い、その家族も歌い、

コーラスも舞台いっぱいに広がって動き回り、Catfish Row の住民一人一人が、役柄にあった動きをしていた。歌が始まるとその家族や中庭の周りに住む人々が自然にリズムに乗って身体を動かす始め、歌手も踊り、最後には全員のコーラスとダンスになり、歌にそった動きがあって見ごたえのある舞台であった。

通例オペラでは、ダンスが必要な場合は、オペラ座専属のバレエ・ダンサーが踊る。だが、ここでは違う。歌手もダンサーやコーラスと同じように Camille A. Brown に動きと振付をつけてもらい、練習し、舞台上に立っていて舞台全体がダンスで盛り上がり素晴らしい。振付は African Americans の身体にある体験 (Black Experience) をダンスにしたものと Camille A. Brown は語る (幕間 interview)。これまではしばしば主要キャスト以外の人物を、一人の歌手が何役も複数演じる小規模な舞台が多かった。だが今回は一人一人配役されて、複数の役を演じる歌手は極く少しである。そして MET で 65 人という黒人コーラスも加わり (ENO では 40 人)、大勢の黒人のコミュニティが再現されている。

極く短い前奏で (初演の Jasbo Brown のブルースなし)、舞台が始まり、Catfish Row を描いた紗幕が開くと、赤ん坊 (人形) を抱いた Clara の子守歌 “Summertime” が最初の音楽として聞こえてくる。南アフリカ出身の新人 Golda Schultz (Clara)^[29] の美声が感動を呼んだ。Golda Schultz はコロラトウーラも歌えるリリックな声の可憐な若い歌手である。赤ん坊を愛し、夫 Jake を愛する Clara を見事に演じていた。そしてこの美しい歌 “Summertime” が Clara に何度も繰り返し歌われ、主役 Bess も後半で子守を任された時歌い、作品に音楽的華やかさを与えていた。昔懐かしい 16 小節のブルースで、アリアにしては短い歌で前置きのレチタもない。しかし、refrain の時には女達が ooh と伴奏し 2 部合唱になり、単なる子守歌を超え、祈りとも言える spiritual として印象的だった。‘high, cry, sky, cry’ という単純な韻が繰り返され、自然により添って生きる若い母の自然に湧き出る歌と感じさせる。夏の水辺の美しさを歌い、赤ん坊への愛に溢れながら、哀調を帯びていて、黒人の悲しみを秘めたブルースである。

“Summertime” の後、Clara の夫 Jake 始め、男達は夜のサイコロ遊びを始める。賭博が始まると、サイコロの目を叫びたてる男たちの声を背景に Clara は赤ん坊を寝かしつけようと又 “Summertime” を歌う。Jake は赤ん坊を寝かしてやるからと赤ん坊を抱いて、赤ん坊に向かって「男として忠告するが」と歌いかける。「女がお前を産み、可愛がり、悪さをしたら嘆くし、うるさく言って育てるが、結婚すると今度は妻になった女がうるさいんだ。女は変わり身が早いのださ」 (“A Woman is a Sometime Thing”) とユーモラスな歌詞の歌を晴れやかな明るい声で歌い、喜んだ男達は、陽気に合いの手を歌う (call and response)。この歌も “Summertime” と同じく昔懐かしいメロディである^[30]。だが、ユーモアにあふれた歌で、Catfish Row の人々が貧しいながら、明るく前向きに生きていることを示す。家族を思い家族のために働く Jake は Clara と子供の幸福を保証する頼もしい男性だ。次の Jake の歌は Catfish Row の装置が回転して、Catfish Row の裏手が正面になり、Seagull 号が見えて来る。Jake と漁師達は出漁準備をしながら、chantey を歌う。9 月の嵐の時期だ

から、漁に行かないでと Clara は言うが、Jake は「僕が船に乗って稼がなくっちゃ、赤ん坊が大学に行く金を作れないだろう？」と言う働き者だ。勇敢な船歌をリードして「どんな天気だろうと僕は早朝に漕ぎ出し、手が火ぶくれになるまで漕ぎ続けるんだ。約束の地の漁場に錨を下すまで漕ぎ続けるんだ」と Jake は歌う。この歌で ‘ It take a long pull to get there, huh! ’ が 3 回繰返し。 ‘ I’ll anchor in the Promise’ Lan ’ も 3 回繰返しである。男性仲間の漁師達のコーラスが Jake のソロに続き 1 節ごとに入り、黒人霊歌の応答リフレーンの形をとる（この歌の旋律に Jewsih の影響を言う批評家もあり）。波の揺れを感じるリズムの繰返し、男性的で迫力ある船歌になる。波の揺れは同じでも恋人に歌うイタリア的な船歌とは異なり、黒人の work song である。Donovan Singletary (Jake) のバリトン (bass baritone) は力強く美しく、彼は 3 つの場面を優れた才能で歌い分ける。この舞台の Jake (Singletary) は、若いが主役と比べても歌が上手く、魅力的な歌手である。彼は、オランダ DNO でも Jake を歌った。2008 年 Salome のナザレ人を歌い、MET debut した。

2 幕の Picnic の後、早朝に嵐の近づく海へ出漁する時、「Clara を心配させるから嵐なんて言うな」と Jake が漁師達に言う場面も、Jake の Clara への愛が明らか。今度の出漁には、Catfish Row の中庭に Seagull 号が置かれ、出漁準備ができると、皆で “ It take a long pull to get there ” と船歌を歌いながら船を曳いて、門を通り抜け、浜へと向かい、1 幕より勇壮である。その後、嵐を心配する Clara を Catfish Row の人々の母親役 Maria が慰める。やがて激しい嵐になり、hurricane bells がなり響く。遭難だ！ Clara は Jake の舟が嵐で転覆したのを窓から見る。命の危険も顧みず Clara は必死に夫を探しに行き、結局二人とも溺死する。愛情深い夫婦の二人が表す互いの愛情と家族愛のドラマに観客は惹きつけられる。そして夫婦を失った住民は弔いで、“ Clara, Clara, don't you be downhearted ” を歌って泣く。教会の歌らしく嘆きの鎮魂歌 (requiem) である。この流れは観客に Clara と Jake に、そして Catfish Row の人物たちに共感させる。Catfish Row の人物が観客に近い隣人のような愛すべき人々になる。夫婦愛と家族愛を演じる理想的な夫婦に共感し、この二人が、町と時代は異なっても、自分たちと同じアメリカ人と観客に感じさせる。観客の共感を誘う音楽により Catfish Row はアメリカの歴史と文化を語る一つの Americana になるのだ。

Porgy と Bess の物語は、1 幕後半に始まる。そこまで二人に主要なアリアはない。だが 2 人の 1 幕開幕すぐの登場は共に印象的だ。夕食後、乞食の Porgy (Eric Owens) が帰って来ると、子供達が足萎えの Porgy のために門を開けてやり、彼を舞台中央の男達が集まる所まで連れて来る。この舞台の Porgy は、原作の山羊車に乗らず、右足に足を固定する装具 (brace) をつけ、足を引き摺り歩く。足は悪いが、杖をついて全身を支える強い両腕をもつ。彼が来ると Jake が「サイコロ賭博の名手が来たぞ」と冗談を言う。Porgy は「今日は運が良くて、白人がポケット一杯の金を乞食に恵んでくれたので、賭博をやれるよ」と言う。そして Crown が賭博に来ると聞くと、「Bess も来るの？」と聞くので、「Porgy は Bess が好きなんだ」と Jake が揶揄う。すると Porgy は「足萎えで乞食の自分にはどんな女も眼をむけてはくれないさ」と過酷な現実を語る。この部分は、短いレチタだが、Porgy の「孤独」という重要な特質を表す leitmotif がある^[31]。

賭の間に酒をガブ飲みし、麻薬も使いすっかり酩酊状態の Crown は勝ち残った Robbins に負ける。だが港の荷役で強くて負けん気の Crown は賭けの儲けを Robbins から取り上げようと掴みかかり、喧嘩になる。激しい殴り合いの末、Crown は綿をとる綿花鉤で Robbins を突き刺して殺す。サイコロ賭博の間、Bess は Crown の情婦でありながら他の男にまで色気を振りまき、男並みに酒を飲むしで、Catfish Row の女たちに売女と軽蔑され嫌われる。Crown が逃亡した後、Catfish Row の人々は誰も彼女に宿を与えてくれない。真夜中に行く所もなく窮地の Bess を Porgy だけが小屋に招き入れてくれる。

翌朝、死んだ Robbins の妻 Serena の部屋での通夜に皆が集まる。女達が一人ずつ立ち上がり、ソロを1節ずつ交代で歌い、その後コーラスが繰り返しを歌う霊歌で、“Where is brudder Robbins?” と1節を一人が始め、“He's a-gone, gone, gone” と応える合唱は、spiritualらしく陰鬱な悲しげな歌である。次に年輩の信心深い Porgy が哀悼の祈りを捧げ、皆に献金をするよう促す。“Fill up the saucer till it overflow” (死んだ Robbins のために未亡人の Serena のために皿を満たせ) と歌い、この歌の繰り返し “Overflow, overflow, overflow” をコーラスで歌いながら、皆が行列になり死者の枕元へ行き、受け皿に小銭を献金する。夫 Robbins を亡くした Serena (Latonía Moore)^[32] の “My Man's Gone Now” は美しい哀悼の歌唱で、この舞台で最も感動的な歌になる。心に憑きまとうような悲しみの長い歌である。Gershwin は、単にレチタとアリアと演奏音楽から成る通常のオペラの歌の形式を超えた複雑な曲を作曲している。その長い歌全体には、伴奏音楽を背景に Serena が悲しみのあまり泣いてしまって泣き声だけの個所があり、嘆き悲しみで歌詞が明瞭に歌えない個所、言葉にならない歌を歌う個所、さらに号泣しながら哀悼を表す箇所などがあり、教会の祈りと唱和のような繰り返しなど、さまざまな「音楽」がある。実は、この歌のみならず、オペラ全体がレチタとアリアの組み合わせ以上の複雑な音楽の構造になっている^[33]。Serena が棺に取りすがって嘆く歌の最後は、高音へと段々と上がっていく音の繋がりが (glissand)、彼女自身の悲劇的な胸の痛みを表し、哀れを誘った。この舞台で最長の喝采を浴びた。通夜の3つの歌は、どれも見事に哀惜と信仰を表し、葬儀そのもののような雰囲気を出していた。

正装が目立つ葬儀屋は、貧乏な Catfish Row の人々から集まった金は大人一体の費用に足りないとするものの、葬儀は行われることになる。通夜は共同体全員が助け合っていて、仲間の絆を感じさせた。通夜に出た Bess は Porgy に貰った金を献金し、皆と一緒にになって Robbins の死を悲しむ。最後に Bess が ‘Oh, the train is at the station’ (天国へ行く汽車が出るわ) と美しい soprano の声で歌い始めると、徐々に他の人々も加わり歌う。この霊歌 “Leavin' for the Promised Land” (約束の国に向け出発する) を歌うことで、商売女と嫌われていた Bess だが、彼女はこの共同体に受け入れられたのだ^[34]。

主題の “Leavin' for the Promised Land” の曲は、4/4 拍子で、車輪を走る汽車の動き、汽笛の響きが楽器や合唱で表現され jazz のリズムを刻む。始め Bess はソロで目立つ所に立つが、大勢のコーラス、次にダンスになると、コーラスとダンスが主体になる。同じように始めは、jazz のリズムが感じられる程度だが、教会の霊歌らしく合唱が盛り上がると、だんだんとアップテンポの jazz と見

事に同調していく。悲しい弔いの歌なのだが、死者が天国に行くという信仰から、死者を祝福する気持ちが喜びの高まりへと変わる。最後には jazz のノリで陽気に歌い、皆で身体を揺らし、賑やかに行進しダンスする南部の African Americans の教会の慣習を巧みに映している。霊歌の賑やかなコーラスとダンス振付は Black Experience の自然な動きで、この舞台第一の素晴らしい場面だった。ここで1幕が大拍手で終わる。初演版の3幕を、今回は2幕にしているので、Jake の船歌、Porgy の Plenty o' Nuttin' は、初演では2幕1場だが、今回は、1幕に含まれる。そこでこの霊歌終わりで紗幕が下りるだけである。(今回1幕が長すぎでダレるという批判ある。だが、Bess の霊歌とそれに続く合唱とダンスが見事だった)。

2幕は、このオペラのメインと言える Porgy と Bess の恋物語である。不釣り合いなほど異なる二人には孤独という共通点がある。かなり年配の足萎えで醜い乞食の Porgy は (原作では50歳ぐらい) 善良だが、女に縁もなく孤独である。30歳を超えても美しい Bess だが、売春によって生きてきて、現在はすぐ暴力に走る悪漢 Crown の情婦である。だが、彼が殺人し逃亡した後、孤独な二人が同棲し恋におちる。

舞台中央で Jake と船乗り達が歌い終わると、舞台が回転する。舞台上手の小屋の前で子供達に囲まれた Porgy に照明が当たり、Porgy の場面が変わる。Porgy の人気の歌 “I Got Plenty o' Nuttin' ” が始まる。「財産は何もないが、俺が大事に思うものは空の星のようにタダなんだ。好きな娘がいるし、歌があるし、一日中天国だ、神の国があるから」(4/4 jazz のリズム)。素朴な単純な生活だが最高だと歌う。Porgy は、板切れで子供達に動物のおもちゃを作りながら歌い、アップテンポの歌は、子供達同様無邪気な幸せに溢れ、Porgy の人柄の良さを示している。しかも、初演 Porgy 役の Todd Duncan によると、これは泥棒を恐れて鍵をかける金持を、何も無い Porgy がからかっている歌なんだと Gershwin が説明したという^[35]。してみると、金持のためでなく普通の庶民のために書いた庶民のオペラという Gershwin の目的を代弁しているような歌である。Hayward が歌詞を書き、それに Gershwin が曲をつけた制作方法と違い、この歌は、まず Gershwin が葬式の悲しみの場面の後ここに何か明るい、Porgy の歌が必要と言って、ピアノで曲を弾き、それに Ira が出だしの歌詞をつけ、その後 Hayward が詩を考え、さらに Ira が修正した。そこで Gershwin らしいリズムの楽しい歌である。またこの歌詞は Girl Crazy (1930 初演) の有名な曲 “I Got Rhythm ” と似た内容である。‘I Got Rhythm. I Got Music. I Got Man. Who could ask for anything more?’ この ‘rhythm’ の代わりに、Porgy は貧しい人々に大切な主なる神 (Lord) を歌う。そして、Ethel Merman が ‘I Got Rhythm’ で “I” の高音を伸ばして歌って大スターになったように、こども Porgy が最後の song をオペラ的に長く伸ばして大拍手を受けている。Porgy の陽気な歌が終わると、舞台下手で女達が、「Bess が来てから Porgy は変わったね。いつも二人で歌を歌って幸福そうだと噂をし、さらに人々が勢出てきて、盛り上がる。

この日は教会の picnic の日なのだが、Bess は picnic に行かないで、「Porgy の傍にいたい」という。Geoffrey Block は、1幕の足萎えの乞食で寂しいという歌からすでに Porgy の孤独を表す主題メロディがあり、ここでその孤独の主題を Bess が歌う「ねえ、聞いて、あなたが行かないなら、私

はあなたの傍にいるわ」(I ain't goin'! you hear me sayin', I ain't goin'. wid you I'm stayin'). こう言う彼女の愛で Porgy の孤独を消えさせるのだと解説する^[36]。

Bess の言葉に喜んだ Porgy は愛を告白し、それは愛の duet になる。素晴らしいアリアと二重唱でこの作品がオペラだという主張に納得させられる。この “Bess, You Is my Woman, now” の歌は、「Bess、君は今、俺の女だ、本当だよ。君は二人のために笑い、歌い、ダンスするんだ。…本当の幸福は今始まったのだ。」この愛の歌は Bess の幸福な姿を思い描く。この ‘sing an' dance for two’ が幸福という歌詞は musical のように思われるが、実は African American の自然な姿を反映しているのだ。Porgy の愛の告白の歌詞を、Bess はほぼそのまま繰り返し、これは実は 1 幕最初に Porgy が歌った小さな歌の “night time and day time” から派生している “Mornin' time and evenin' time and summer time and winter time” と短い美しい refrain を歌う。この最後の節を Porgy は繰り返し、Bess の愛に確信をもてた Porgy はさらなる幸福を提案する。

2 番は、「私たち二人は今や永遠に一つなのだ。そして今この瞬間から私はこの誓いを守る」(“We two is one now and forever. From this minute, I keep this vow”) と永遠の愛を誓う。弁護士 Frazier からの離婚届けを手にして歌われ、結婚式の愛の誓いとなる。Bess の愛を認識して、自分も結婚の愛を歌うのだ。Angel Blue (Bess) の表情は微笑んでいるようで、この恋の幸福を表すにはぴったりである。この二人の恋の二重唱 “Bess, You Is My Woman Now” は、実は Heyward の台本にはなかった部分で、元の台本に Gershwin が手書きで「ベスの主題」と書き入れている^[37]。つまり Gershwin の考えでこの二重唱は作曲された。2 重唱の歌詞は、Heyward が詩人らしく愛の賞賛を歌い、Gershwin の曲は love ballad に近い。だがオケは弦楽器が甘く美しく響きオペラらしく、高揚した気持ちをオペラ風のスピントの効いた高音を長く伸ばした歌に作曲されている。

MET 公演では Porgy 役の Eric Owens は録画の当日風邪をひいたため、声量が無いだけでなく、バス・バリトンの低音が響かない残念な duet だった。Bess 役の Angel Blue の soprano は美しく、情熱的に聞こえ、高らかに、のびのびと歌い、賞賛され、舞台の人気をさらった。2009 年 San Francisco Opera (DVD) の際、Eric Owens は愛の高まりを表す美しい歌唱で、低音も響き、強い声で見事であった。この二人の愛の歌は、この後も事あるごとに Wagner の motif のようにメロディが流れ、歌わずとも二人の主題となっている。

二人の 2 重唱が終わると、人々が舞台に入ってきて、教会のパレードが来たと歌い、教会婦人会員が信仰を示す装飾帯をたすきがけし、そのうち二人は ‘Praise Him’ という横書きの幟を持っている。Picnic に早く行きたくて、「じっと座ってられないわ」(“I can't sit down!”) という子供の歌声から始まり、コーラスになり、皆楽しそうに歌い、ダンスしながら行進して行く。この合唱と行進は、folk song から Gershwin が作った歌というのが Broadway 風の響きもある。Catfish Row の女家長的 Maria が来て、Bess に「picnic に遅れるわよ。さあ、籠は？帽子は？」と言う。Bess は Porgy を残して行くのは嫌だと言うが、Porgy は Bess に行くようにと勧める。HGO 公演の CD で、別れを惜しんで歌う Bess (Clammo Dale) の美しいピアノの音がだんだん遠くなるのにオペラ的歌唱でうっとりする。Bess を picnic に連れて行く Maria は、MET で Carmen を歌った名歌手

Denyce Graves である^[38]。Bess の行った後、「何も無いけど幸福だ」(“ I Got Plenty of Nuttin' ”) と歌う Porgy。

Picnic の目的地は Charleston から船で行く小島 Kittiwah Island である。ここは、装置が一新する。Charleston から来る船の船着き場の建物が上手端にあり、下手の端まで栈橋が空と海を左右に横切る。一直線に伸びる板張の通路の中央に斜めに階段があり、その階段を降りると、教会の picnic の広場である。空と青い海を横切る栈橋が、picnic に相応しい明るい美しい風景となっている。若者達が飛び跳ねる元気一杯の break dance 風の “ I ain't Got No Shame ” を踊りだし、皆がダンスを楽しむ。Picnic の終わりに Sportin' Life が子供達のための説教だと称して、“ It ain't Necessarily So ” を歌い踊る。歌詞も Ira Gershwin 作のこの歌は、Gershwin 兄弟お得意の musical comedy の楽しい song and dance になり、ジャズのリズムが快い。彼の歌だけは、オペラでなく vaudeville 歌手を念頭において作曲されたので、初演オペラでも映画でも vaudeville の芸人が歌いダンスしたが、ここでは、一変して MET debut の若いテナー歌手で、『セビリアの理髪師』の伯爵を甘く美しく歌う Frederick Ballentine が歌う^[39]。素敵な高い響きのテナーで、Gershwin の意図以上ではないかと言える美声である。その上 vaudeville 歌手のように達者に歌い踊り、このオペラの見どころである。「小さなダビデがやったゴリアテ、大きな鯨の中に閉じ込められたヨナ、エジプトの姫に助けられた赤子のモウセ」など、子供たちが良く知っている聖書の挿話を歌い踊る。聖書の説教を面白可笑しく皮肉って歌い、Sportin' Life の不信心が暴露され、これが教会主宰の親睦会ということ忘れてしまいそうな面白さ楽しさである。「だが子供たちよ、必ずしも、そううまくいくとは限らないんだから、天国に行くには、賭博をしてはダメ、僕のようにきれいに暮らし、悪いことをしてはダメ」という1節には、大いに笑われる。MET 公演では Ballentine のソロに、皆が（初めは子供達が）refrain をコーラスし、賑やかな掛け合いになる。皆が歌とダンスを楽しんでいるのが伝わってくる。しかも幕間での Audra MacDonald のインタビューで、この掛け合いのコーラス部分は、Ballentine の即興で高音や難しいリズムになったりして、毎夜演奏によって違うのだが、コーラスが巧みにつれてくるとのことで感心した。とすると、この歌とコーラスは、白人 Gershwin の作曲であっても、ここでは黒人音楽の即興性を発揮して歌われたのだ。作曲された本歌でも巧妙な脚韻と歌詞が、ずる賢く口のうまい洗練された都会人という Sportin' Life の人物を巧に表す歌になっている。この Sportin' Life の不信心を真面目な教会員の女性 Maria が叱って、picnic はお開きとなる。

Kittiwah 島の picnic の帰り、待ち伏せした Crown に捕まり、Bess は 2 日後に Porgy の小屋に戻ってきて、意識なく譫言をいう熱病が続き 1 週間も寝込む。意識を取り戻した Bess は、後で Crown が迎えに来ると伝える。「本当は、私はここにいたいわ」、「 I Loves Yo', Porgy ” と Bess は歌う。Porgy は、「君がここにいたいなら、ここが君の home だ。君を盗み出そうとする汚い犬に盗ませやしないよ (‘ a dirty hound dog ’)」と歌う。Porgy の何としても Bess を守りたい決意が明らか。二人は再び愛を確認し、束の間幸福を得る。

Crown は、幕開けの殺人や Porgy と Bess との三角関係でも、ドラマで重要性の高い役柄であるのに、『 Red Headed Woman ’ の歌しかアリアが無い。しかし Live from Lincoln Center の映像で

は、支離滅裂に神を冒瀆し、悪党ぶりを発揮し、暴れ回る Crown は舞台を圧倒している。ダダダダと打ち鳴らす迫力ある恐ろしいオケ音楽 (DeMain 指揮) が、Crown の主題音楽で、強い肉体からの生命力に溢れ野獣のように暴れ回る Crown をよく表している^[40]。激しいハリケーンに皆が脅え、“Oh, Doctor Jesus” と題される不思議なコーラスが歌われる。これは黒人達が自然発生的に歌いだす形式の6人のソロで、それぞれ異なる歌詞で、異なるリズムで次々に輪唱のように歌われるのだが、6人の歌声とソロ以外の全員の祈りのような合唱とが重なり、歌詞も聞き取れないままなのだが、それでいて不思議に和声がある。だがハリケーンの凄まじい轟音で、その恐ろしさだけが感じられる場面でもある。

6人のソロは、Charleston や近郊の黒人教会を回った時、Gershwin が最も惹きつけられ、その形式を模倣したものである。この嵐の晩、誰か扉を荒々しく叩き、死神かと皆を恐怖に落とし入れる。Crown が Bess を取り戻しに来たと言い、渡さないという Porgy と口論になる。「嵐なんだから大人しくしなさい。神の一撃がおちるわよ」と Serena に言われても、Crown は怯まない。「Kittiwah 島からここへ来るまでに神と掴み合いをして、今じゃ友達さ。俺は男を夢中にさせる野性の赤毛の娘を欲しいんだ」(‘Red Headed Woman’) と歌う (Jazz number)^[41]。この歌では、赤毛の女がどんな男とでも性関係を楽しみ、その性行為が男をたぶらかし、夢中にさせてしまう wild で娼婦的な女だと言う。この Crown の言い分が問題だ。本当に Bess は欲望の強い娼婦のような女で男を誘惑するのか？

Kittiwah 島での picnic から帰る途中の Bess を Crown は誘惑する。自分の言う通りにしろと力づくで迫る。しかし、彼女の幸福だけを思う Porgy に愛され、無私的愛を知って変わった Bess は、“What you want wid Bess?” の歌で答える。「もうこんな年の私じゃダメよ。あんたを満たしてくれる若い女がいるわよ」と。だが、若い肉体の強い性欲をもつ Crown は嘲笑う。そして、Bess に「他の女なんて要るものか。お前を今必要なんだ。俺が必要な限り」と言う。自分の都合で「今」必要で、「俺」が必要な「今」、「肉体関係」が必然だと言う。Crown は、女の気持ちなど考えず、自分の性的欲望を満たすために女を利用する。もし女が命令に従わなければ、Crown は暴力で女を思うままにする。つまり rape である。Bess は Crown の情婦だった5年間、二人が相互的な愛情関係ではなく、女が暴力的な男に支配される DV の関係 (支配隷従関係) だったと語る。彼女は精神的に愛されず孤独のあまり麻薬に耽る。すると、Crown は、“Red Headed Woman” で歌うような Bess の野生的な欲望にたぶらかされ、夢中になっているのではない。全く逆に自身の性的欲望と強い肉体によって、女を服従させ支配しているのである。この関係は、Bess が欲望の強い黒人の女だからではなく、一般女性がぶつかる強い男と弱い女のセクハラ問題 (sexual harassment) である。従って黒人女性で性的欲望が強く誘惑する娼婦のような女という見方は、Crown の主張によるだけで、picnic 場面の台本のレチタヤト書きでも、Bess は Porgy との愛と「結婚」を重視し、別の男との性行為を拒絶する。この Bess は過去と違って娼婦のように男を誘惑しない。だが、プランテーション農業が始まって以来、農園主が黒人女奴隷を性の奴隷にした歴史によって、特有の性的欲望が強い黒人女性という既成概念が作りだされた。白人農園主達が、自らの rape 行為を正当化するために、黒人

女性の娼婦性が、男性の心を惑わすという黒人女性への偏見を広めた。

では、Gershwin は Bess が娼婦性をもつ黒人女性と思っていただろうか。彼は音楽家として、むしろオペラの伝統と解釈していた。また小説家 Heyward も Crown の性的誘惑にも、Sportin' Life の麻薬による誘惑にも、古代聖書の Eve を連想させる蛇 rattlesnake (裏切り者、信用できない奴) に誘惑されると Bess に繰り返させる。つまり、文学の伝統で蛇の誘惑に負ける Eve として描いたと思われる。オペラでは、Eve の伝統を受け継いだ『カルメン』や『マノン』のような欲望に従って生きて、男を破滅させる性的魅力のある女が描かれる。美しい魅力的な女に男が誘惑され、この女が男を死に至らせる、または男が女を殺してしまう。Gershwin は Porgy and Bess を説明するのに、『カルメン』に似たロマンスと語り、地方色と民俗的音楽の点でも『カルメン』を模範にしていた^[42]。

さらに Gershwin が最も尊敬していた同時代の作曲家ベルクのオペラ『ヴォチェック』(1925 独初演)も、同棲している女マリーが、軍隊の鼓手隊長と浮気したと知り、兵士ヴォチェックが女を殺してしまう物語である。Gershwin はこのオペラを観劇し、Modernism の作曲家として尊敬するベルクをドイツに訪問し、さらにこのオペラのスコアを研究した。物語のみならず音楽面でも Porgy and Bess はこのオペラの影響が多くみられる^[43]。マリーのように性的欲望に従い、浮気する女は、Gershwin にとってはモダニズムを体現するのである。そして Bess も、当時の変化し進歩する時代に生き、自分の欲望を知って行動する女性なのだ。しかし、文学の伝統で Bess の誘惑を描いたものの、Heyward は南部の黒人奴隷を強制労働させた農園主の家系に生まれ育ち、無意識に黒人を上から目線の既成概念で描き、Charleston の白人の慣用通り、‘nigger’と呼んでいた。オペラ初演準備の際、黒人歌手達がレチタや歌詞に頻出する‘nigger’が嫌だと訴えた事に言及し、Heyward の妻 Dorothy は、Charleston では差別などではなく、ただ日常語であると語った。黒人歌手の訴えに対して、Heyward は何もせず、Gershwin と Heyward の死後、彼らより進歩的な Ira Gershwin が楽譜校正の折‘nigger’を削除した^[44]。1942 年の公演で、Anne Brown が辞めた後、Bess を歌った Etta Moten (Barnet) は台本の‘nigger’という語を教養ある歌手として拒絶した^[45]。Heyward 夫妻は慣用で無意識だったのだが、1935 年当時 Gershwin のほうは“nigger”や“negro”を差別用語と認識するだけの進歩的教養がなく多用していた。1951 年の名盤 Columbia Records の制作者 Goddard Lieberman は初演台本中に溢れている‘nigger’に困惑し、時代の変化を考えねばならないと言って台本 text から‘nigger’をすっかり取り除いた^[46]。しかし初演準備中に黒人歌手達と Gershwin はまったく偏見なしに交際し、Todd Duncan とは Gullah 語を覚えるための Charleston 滞在を同じ宿にしようとして黒人宿主に断られた。また Heyward は、Porgy 出版以前から Charleston の黒人についての随筆を文学同人誌に書いているが、その中では黒人差別や偏見どころか、黒人の自分の作った曲で自然に歌いだす能力を賞賛し、また農園主が黒人奴隷との間に築く優しい愛情深い豊かな関係を懐かしんでいる。[これは奴隷への抑圧の過去を忘れた農園主側の発想でもある]。Porgy and Bess では昔の農園主 Archdale 氏が Catfish Row を訪れ、彼の召使だった Peter の保釈金を払って留置場から出してやりたいと思い、Porgy に詳しい事情を尋ねる場面に反映されている^[47]。差別的用語は別にして、二人とも行動では黒人に共感し、彼らに友情をもっていたと思われる。

Gershwin のこのオペラは黒人 cast に限るという決定も、黒人の天性の音楽を尊敬すればこそで、貧しいが元気で明るい黒人を賞賛する音楽を書いたのである。そこで、初演の聖歌隊指導者 Eva Jessey は、Gershwin のオペラは、“ just right, like our people ” のように聞こえる音楽を書いてくれた。そして私達の魂の奥底からの祈りを真実に描いてくれたと語る。オペラの音楽は “ our inheritance, our own lives ” を表現して書いてくれたと賞賛する^[48]。

1952 年の欧州親善ツアーの練習をしていた黒人歌手達が作品の黒人差別や偏見が嫌だと言った時、欧州親善ツアーを企画し演出もしていた Robert Breen が、大学卒や音楽の修士号を持っている歌手達は、Catfish Row の黒人達とは文化的背景が全く違うから、困難を感じるだろうし、今では既成概念にそった黒人を演ずる必要はないが、台本の黒人達の台詞や歌は 1920 年代のその当時を映したものである。オペラをやる以上は、どのオペラでも背景に入り込んで演じるのが重要だと話した。理解した歌手達は、異なる時代、異なる場所にいる自分が演じる人物と同一化するよう努めた^[49]。演出家の意識も黒人歌手達の意識も時代と共に変化したことが明らかである。

初演から 80 年経ち、社会的認識が変化した現代、白人男性の指揮者や演出者主導では政治的に正しくないと言われる。幕間でこれをどう思うかと Audra McDonald が歌手達に質問した。3 人の女性歌手達 Denyce Graves, Latimore Moore, Golda Shultz は、恐らく指揮者や、演出家への遠慮もあったのか、明瞭に答えず、話題をずらしてしまい、interview は終わってしまった。2011 年の女性演出家とスタッフによる Porgy and Bess の Musical 翻案版で、フェミニストとして Bess を演じた McDonald には思うところあったはずである。Paulus 演出より遡り、女性演出家 Francesca Zambello による 2009 年 San Francisco Opera の舞台は、今までの男性演出家の舞台と異なり、性関係を嫌がる Bess が Crown によってセクハラを受けていることを示すものであった。SFO の Bess (Laquita Mitchell) は、picnic の場面で Porgy を愛しているから、Crown との性的関係を嫌だと言い張り、Crown が性的愛撫をするのに抵抗する（ここまで台本通り）。とうとう Crown は棕櫚の茂みに行くのだと命令し、なおも抵抗する Bess を肩に担いで、棕櫚の茂みに入り、性交を始めるところで幕が降りる。つまりこの舞台では Bess (女性) が嫌がる限り、性関係は無理強い暴力的行動 rape だと明白にしている。今回の MET 舞台は、原作のト書きや台詞以上に、Bess が欲望にかられ、一旦逃げかけたのに欲望を抑えきれず、元へ戻る演技や、Crown が来るのを待ちきれない様子により、強い欲望から性行為を好むと演技している。昔の白人農園主が広めた男性に好都合な黒人女性のステレオタイプ化である。演出家が女性と男性ではこれほどの違いを生んでいる。現代では、昔の黒人女性奴隷そのままに性欲の対象にされ、白人女性でも権力ある男性にレイプされ、性的被害を受けていることで、Me Too 運動が起こっている。今、人種差別や身分階級ではなく、権力ある白人男性に支配される権力のない弱者 (女性) という社会的差別がなされている。従って、現代では女性の意志を尊重し、弱者としての一般女性の問題として演出するべきなのだ。

しかし、オペラ Porgy and Bess には、誰が演出しようと、白人による明白な黒人差別抑圧への批判が描かれている。そのため、Gershwin は白人の台詞には作曲せず、レチタや歌を与えなかった。1920 年代そのままに描いているのだが、作者 Heyward と Gershwin は、Catfish Row の黒人達に

共感をもって、白人達の偏見・差別を批判している。

殺人の捜査にやってくる白人警官の態度には、現在も続く白人の黒人差別が明白である。白人警官が黒人を暴力により痛めつけて、黒人の自白や告発を導きだす。あるいは自分には敬語を強制し、黒人には暴力的差別的用語の台詞を使う。白人に逮捕され、白人裁判官が刑罰を決める当時の法制度のもと、逮捕された黒人は死に至る強制労働の懲役となるのが常であった。これを恐れる Catfish Row の住民は白人警官に逮捕されまいと従順にふるまう。白人警官は黒人地域の殺人だから、犯人は暴力的な黒人だと断定して、やって来る。だが Robbins 殺害の犯人が分からないまま、ちょうど眼があった蜂蜜売り Peter を犯人だろうと痛めつける。耐えかねて、「Crown が犯人」と言う Peter を、理不尽にも今度は目撃証人と断定して黒人ゆえに連行する。2 回目の捜査、Crown の殺人捜査も、Crown に殺された Robbins の妻 Serena の復讐と決めつけて彼女を尋問にやって来る。しかし、病気で 3 日 3 晩寝ていたという Serena の言葉と看護の娘たちの証言に、捜査が行き詰まる。尋問を予想した Serena が芝居をして、白人警官を煙にまくのは痛快である。こういう白人批判のドラマがあって、オペラの間には黒人たちに共感した MET の観客は、オペラが終わると、白人警官役の俳優に対し、ブーイングで非難を浴びせた。

Porgy が Crown を殺したと住民は推測するものの、誰も警官の尋問に答えない。ここでも Serena 同様、黒人たちが白人警官を出し抜いている。それでも白人警官は、Crown の死体に近い小屋に住む Porgy を「被害者の顔」の確認と理由づけして、連行する。この舞台での白人警官の行動は 1920 年代の現実を写すのだが、今も続く黒人を「暴力的に」取り締まり、痛めつけて逮捕する白人警官のニュースを思い浮かばせる。黒人が死に至るまで暴力を働く白人警官の行動は、黒人差別の明白な典型だ (Black Lives Matter)。これは、開拓時代を思い起こさせる。未開拓の地に住む先住民達 native Americans を白人たちは、野蛮で残虐な野生人と主張して先住民を殺し滅亡させ、先住民の土地を奪った。そして黒人に対する差別もまた、白人農園主が黒人奴隷を人間以下 (単なる野蛮な動物) として強制労働に追いやったことで始まった。

しかし、Porgy の Crown 殺しは、信仰に生きる善良な Porgy の人柄と合わないし、納得できない。だが、黒人に対する理不尽な司法制度のゆえに、また何の罪でも黒人を逮捕するだけの警察のやり口から、他に手段がないと作者は考えた。白人の圧制を批判しているのだ⁵⁰⁾。何事にも暴力を使う強い Crown が生きてい限り、Bess は再び Crown の情婦にされてしまう。Porgy の「妻」Bess を rape した欲望の強い悪党を殺すしかないのだ。とは言え、原作台本の Porgy が背後から殺すのは Porgy の性格を裏切るものだ。これを SFO の Zambello 演出は、巧みに納得いくものになっている。Bess が子守歌 (“ Summertime ”) で寝かせた赤ん坊を Serena に渡す。すると Crown が現れ、「迎えに来たぞ」と腕を引っ張り Bess を無理やり連れて行こうとする。Bess が抵抗していると Porgy が小屋から出てきて、3 ツバの争いになる。Bess の略奪を阻止しようとする Porgy は Crown に何度も殴り倒される。その間に Bess は中庭のテーブルに放置されていたナイフを Crown に向け振りかざすが、Crown にあえなく奪われる。争ううち、ナイフが地面に落ち、それを拾った Porgy が Crown を刺す。これだと Bess が奪われる現場で、暴力的な Crown に防御として Bess の代わりに

Porgy が行動するので、台本の闇討ちと違い、Porgy の行動が納得できる。しかし Bess は Porgy が警察に連行されるや否や、Sportin' Life に誘惑される。Porgy は殺人犯として長期の刑務所暮らしで、絞首刑になるかもしれないと、Sportin' Life は Bess に思いこませる。Porgy がいない孤独を思うと Bess は孤独と不安にかられ、Sportin' Life の粉に手を出してしまう。Sportin' Life はもう 1 袋の cocaine を見せびらかし、New York での華やかな高級娼婦の生活に誘惑する。

だが、Porgy との愛に満ちた生活の後では、無理強い性の関係は、Crown の rape で身も心も破壊されると知った。もう、男に絶対に支配されたくない。だが、Porgy が帰らないなら、自立しなければならない。娼婦は嫌だが、New York なら、娼婦以外の別の仕事で生きていけるはずである。大戦後、女性参政権を得た女達は奔放な恋を楽しむ大繁栄する時代に生きている。南部の黒人達が仕事を求めて New York へ大移動する時代が始まっている。そこで Bess は New York での新しい生活の未来を望んで New York へ行く決心をする。

この場面の Zambello 演出は、娼婦は嫌だと言った後、Bess は微笑みながら、ジャズ・ダンスのリズムに乗ってスカートを翻し、陽気に踊りながら Catfish Row を去って行く。1930 年代この Bess は男に縛られる性関係を嫌い、自分の欲望に従って自由に行動するのだ。作者 Heyward と Gershwin は、『カルメン』や『ヴォツェック』のヒロインに見られるような、欲望を否定することなく時代の潮流に乗って、自由に生きるヒロインを作りだそうとした。そこで Porgy と Bess の分離した二つの物語がある。Porgy はあくまで Bess との幸福を求めて New York に行くのだが、Bess は Porgy の釈放を知らないまま、Catfish Row から New York へ行く決心をしたのだ。そこで結末は open ending になっている。しかし、二人とも抑圧された Charleston の Catfish Row の黒人の生活を捨てて、自由に向かって出て行くのだ。

最後は、Porgy の物語である。釈放された Porgy は Bess のために買ったお土産を渡そうと、「赤いドレスは Bess に。彼女には赤が似合うからな、Bess」と呼んでも、彼女は来ない。「Oh, Bess, My Bess, Oh, Where's My Bess?」と Porgy は悲痛な声で尋ねる。彼の歌は胸に迫る悲しさがある。Serena と Maria は「Sportin' Life と NY に行ってしまった。Bess は良い娘じゃないわ、忘れなさいよ」と Porgy を宥めようとする。だが Bess が生きてると聞いた Porgy は有頂天になる。「俺も New York へ行く」「Oh, Lawd, I'm on My Way」と歌って立ち上がる。杖なしに、門の外へと萎えた足だけで、Bess へ向かってただ歩き始める。この最終場面は感動的である。最後に合唱団と歌手達が出てきて、旅立つ Porgy を仲間たちの大合唱で元気づけ力づけて、オペラが終わり、幕が下りる。

黒人差別や偏見で問題はあるものの、Gershwin の音楽が、それを余りあって素晴らしいと評されたロンドン公演やオランダ公演と比べ、MET の Robertson は、年齢のせいかな (Gershwin 37 歳作曲の音楽)、Gershwin のジャズ的魅力に欠ける音楽だった。またこれまでの好評な公演、Houston 公演 (180 分超)、Glyndebourne の Trevor Nunn 演出の公演 (DVD : 184 分)、Rattle 指揮の Berlin Phil 公演 (201 分) などと比べ、オペラの短縮部分が多いのが、残念である。MET には、もっと長時間の公演を実現してほしい。

だが、アフリカン・ダンスに溢れた MET 舞台はすばらしい。この公演では、何より Gershwin の音楽を生かしたアフリカ系の人々のダンスによって、いきいきした舞台を造りだしていた。1920 年代のダンス音楽の流行で生まれたアメリカ音楽が、Gershwin のオペラ音楽として使われ、普通のクラシック音楽より一歩進めた互いに共感する仲間としての喜びを観客に与えている。その場の風景や雰囲気まで描く Gershwin の音楽により新しいアメリカ・オペラが実現している。

註

[1] Porgy and Bess. 音楽 : George Gershwin, 台本 : DuBois Heyward. Lyrics: DuBois Heyward & Ira Gershwin, 1935 年初演。

(邦題「ポーギー」は英語発音からいうと間違い。「ポーギ [英語発音 gi] とベス」が正しい)

CD : 2019 年 9/23 & 10/16 MET 2019 年シーズン開幕公演中継録画

Gershwin's Porgy and Bess (Opening Night)

公演日 : September 23, 27, 30, October 5, 10 13, 16, January 8, 11, 15, 18, 24, 28, February 1

Production: James Robinson

Design: Michael Yeargan

Bess: Angel Blue

Clara: Golda Schultz

Serena: Latonia Moore

Maria: Denyce Graves

Lily: Tichina Vaughn

Strawberry Woman: Aundi Marie Moore/ Leah Hawkins

Annie: Chanae Curtis

Sportin' Life: Frederick Ballentine

Porgy: Eric Owens

Crown: Alfred Walker

Jake: Ryan Speedo Green Mingo: Errin Duane Brooks

Robbins/Crab Man: Chauncey Packer

Jim: Reginald Smith Jr

Peter: Jamez McCorkle

Frazier: Arthur Woodley

Metropolitan Opera Orchestra and Chorus

Chorus Masters: Donals Polumbo and David Moody

Conductor: David Robertson

Coproduction with Dutch National Opera and English National Opera

Music Producer : David Frost

Total run time : 163mins.

Metopera. org.

(P) & ©2019 The Metropolitan Opera . CD: 8.100004 20118 7

CD の cast 表に言及の crew (staff) は演出、指揮、装置美術のみだが、舞台上で重要な振付、衣装、照明 projection の crew (staff) は本文 (pp.73-75) に記入。

[2] MET Live Viewing 用の program に ENO の production という記述があり、3 歌劇場の中で ENO が主

導なのか不明。ENO は実際 MET よりはるかに長く公演し、国内巡演もあり 1 年間ほど DNO や MET 公演との間に間隔がある。なおこの Program の Boston 初演 (1935) の記述は間違いで、Boston は試演であり、実は Broadway, Alvin Theatre 初演である。

- [3] Leonard Slatkin (オペラでは『西部の娘』(1992 年 MET Placido Domingo と Barbara Daniels 主演)。Slatkin は、2000-2004 年にアメリカ人で最初に Proms の看板番組 “The Last Night of the Proms” (BBC Symphony) を指揮して世界的名声を得た。Slatkin を継いで Robertson 指揮の SLSO は Proms に出演 (2012-13)。
- [4] オペラ Regina (1949 初演) は、Marc Blitzstein 作曲のオペラで、Lillian Helman の戯曲 The Little Foxes (1939) に基づき Blitzstein 自身が歌詞も台本も書いた。彼は資本主義社会批判をしようとの原作を選んだ。3 幕のオペラは、ヴェリズモ・オペラの音楽形式で書かれている。その中には spirituals 黒人霊歌、ヴィクトリア朝の室内サロンの音楽、ダンス音楽、ragtime、オペラのアリア (aria) そして大きな交響乐的な音楽がある。つまり人種のるつぼのアメリカを表すために、Gershwin と同じく、古典的オペラと Broadway の大衆音楽の両方を用いている。Bertolt Brecht (台本 & 歌詞) と Kurt Weil (音楽) のアメリカの jazz や大衆音楽を用いた舞台劇『三文オペラ』(1928 独初演) を、Weil の弟子とも言える Blitzstein が原作独語版を英語版 (Threepenny Opera, 1954) に翻訳し、アメリカ初演 (1956) に尽力した事は有名である。Blitzstein は、彼の社会主義思想を反映した Musical The Cradle Will Rock (1937) を作詞・作曲している。労働組合と社長 (資本家) の争いを描くため、初演当日、劇場に公演を拒絶され、舞台上の Blitzstein の piano だけの演奏に合わせ、歌手達が客席から歌った、特異な作品だが、再評価されている (2019 年新 CD)。
- [5] Theatre Guild は 1919 年 Washington Square Players のもと団員達によって New York 市で結成された演劇団体。始めは 1920 年以後の G. B. Shaw と、1928 年以後の Eugene O'Neill の名作上演で基盤を固め、以降売れそうにもないが良質の作品の制作・上演を支援することで有名な演劇団体となる。1920-1970 まで Broadway の繁栄に大いに貢献し、米国演劇界を牽引し、米国演劇史上に大きな足跡を残した。
- [6] アメリカでは、African American, black, negro のいずれも同じ人種、文化の人々を指す。だが、negro は (ラテン語 negro (黒色) 由来の語で、アフリカ系の黒人奴隷をさして植民地で使われた) 差別用語であることから現在では「アフリカ系アメリカ人」が、最も政治的に正しい言い方とされる。元来西アフリカで捕えられ、あるいは人身売買された人々を輸入して、植民地の奴隷として人間以下の差別をしてきた歴史から、現在では、“negro” は卑語、蔑称となりその使用は社会的タブーとなっている。しかし black (people) は差別用語でなく、white 白人との対比から使われる。したがって本論文では、アフリカ系アメリカ人と黒人を文脈によって使用するが、アフリカ系アメリカ人は長い語であるので、簡略にするため英語 African American(s) を用いることも多い。

アメリカでは black の血が一滴でも混じれば、彼 (彼女) は black であると慣習的にされてきて、現代の裁判でもそのように使われる。

- [7] Gershwin の論文は Porgy and Bess 初演 (1935) 後に、folk opera という副題についての 1 種の弁明が書かれ、その他に彼の初演 opera についての様々な意見を述べた (NYT に掲載)。この Gershwin の弁明について、以下の解説を参照。

Hollis Alpert, *The Life and Times of Porgy and Bess: The Story of an American Classic*. (New York Alfred A. Knopf, 1990) ISBN 0-394-58339-6. P. 118 原文と縮訳あり。

Richard Crawford, *Summertime: George Gershwin's Life in Music*. (W. W. Norton & Company, 2019) ISBN: 978-0-393-35835-3 pbk pp. 415-419 詳しい箇条書きにした引用、要約と解説あり。

Howard Pollack, *George Gershwin: His Life and Work* (University California Press: Berkeley, Los Angeles, London, 2006) ISBN 13: 978-0-520-24864-9 cloth pp.589-591.

Gershwin の論文から、Steve Metcalf (Hartford Journal) が展開した批評論文 “Folk Opera or Real

Opera?"(2018) が興味深い。Steve Metcalf, 'Folk Opera? Or Real Opera? In Defence of "Porgy and Bess," Hartford Journal, April 19, 1998. net. から <https://www.courant.com/news/connecticut/hc-xpm-1998-0>

Metcalf は、「Gershwin は黒人音楽を白人に appeal するようにしようと生涯努力して American Music を作った。Gershwin の音楽が立派なオーケストラ・スコアであり、オペラ歌曲だと認められた今現在、「folk opera でなく」単にオペラと呼ぶべき」と言う。また Gerald Mast は folk opera を「民族的にアフリカ系アメリカ人の人々の (音楽) 芸術」 'art of people' と言い変える (P. 81)。Gerald Mast, *Can't Help Singin': The American Musical on Stage and Screen* (The Overlook Press, Woodstock New York, 1987) P. 77 ISBN 0-87951-283-0

- [8] 本文中の George Gershwin の伝記的事実に関しては、Hollis Alpert に負っている。以下、本論に重要な人々や事件のみ註にあげ、頁を明記して、説明を加える。

Charles Hambitzer (1878 or 1881-1918) は交響楽団の演奏家 (violin cello, or piano) で作曲家。彼は音楽一家に育ち、曾祖父はロシア宮廷の音楽家であった。Wisconsin 音楽院で piano, violin, cello を教え、後に NY へ行き、Waldorf-Astoria Hotel のオーケストラでピアノ・ソロを担当した。その後マンハッタンで音楽学校を開き人気あり隆盛した。そこへ Gershwin (11 歳すぎ) が習いに来たが、あまりに巧みな演奏なので、喜んだ Hambitzer は月謝を取らないで教えた。後にもっと専門的教育を受けた Edward Kilenyi を紹介した。Gershwin は少年時代から生涯、大きな影響を受けたと語る (Alpert, 26)。

Edward Kilenyi (1884-1968) は、Hungary 生まれの作曲家・編曲家で pianist, violinist。イタリア、ローマでマスカーニに師事、その後音楽院で学ぶ。次にケルン音楽院に学ぶ。(1908 年 diploma)。Gershwin はピアノ協奏曲やオペラの総譜を書く際には、Kilenyi に教えを乞うた (Alpert, p. 27)。

- [9] "Blue Monday" Gerald Mast はこの小オペラを最初の交響乐的 jazz (as the first piece of symphonic jazz) と言及 (Mast, 77)。

Alpert によれば、黒人オペラに否定的な大方の批評と違い W. S の initial の批評家が「新しいアメリカの音楽芸術の輝く光を見せてくれる舞台」という好意的な批評をした。Alpert, *Porgy and Bess*, 29.

CD: *Selections from Porgy and Bess /Gershwin/ Blue Monday: Opera a la Afro-American* (1922) [World Premiere Recording Original version]

Cast:

Gregg Baker, Harolyn Blackwell, Angela Brown, Marquita Lister, Thomas Young & Cab Calloway
Eric Kunzel, Cincinnati Pops Orchestra

Blue Monday: Opera a la Afro-American (1922) [World Premiere Recording Original version] original piano sketches by George Gershwin. original William Vodery orchestration and the Buddy De Sylva text (housed in the Music Division of the Library of Congress).

Cast:

Gregg Baker, William Henry Caldwell, Lawrence Craig, Marquita Lister, Kirk Walker, Thomas Young.
Total Playing Time: 71:23

Eric Kunzel: semi-staged Performances of *Blue Monday* on May 16, 17 and 18, 1997, in Music Hall, Cincinnati.

Recording Producer; Robert Woods Recording Engineers: Jack Renner, Micjhael Bishop

©1998 TELARC

この CD の歌手はすばらしい。Gregg Baker (Porgy) は、Radio City Hall (1983) でみごとに Porgy を歌い、Metropolitan は 1985 年の *Porgy and Bess* 初演に早速彼を雇った。主役 Bess と *Blue Monday* の Violet を歌う Marquita Lister (1961 生) は 2002 年の *Live from Lincoln Center* の主役 Bess である。Harolyn Blackwell (1955 生) は Simon Rattle & Trevor Nunn の *Glyndebourne Festival* 映像の Clara (1986 & 1993) であり、その後オペラ歌手として成功した経歴をもつが、ここでベテランとして Maria を

歌っている。そしてもちろん有名な vaudeville 歌手で Sportin' Life を歌う Cab Calloway という魅力的な cast である。

[10] Jazz を演奏し、有名な Whiteman の音楽会での ' Rhapsody in Blue ' の演奏により Gershwin は名声を得たのだが、実は Whiteman は「本当の jazz man ではない、彼の jazz band に優れた jazzmen がいたのみ。また編曲者の Grofé が優秀だったために人気を得たのだ」という評もある。こうした事情が、Gershwin の作品を横取りして編曲演奏することにもなり、Gershwin と Whiteman の仲違いの一因であろう。この音楽会に jazz と classic が歩み寄った曲を提供した作曲家は、Victor Herbert, Jerome Kern, Irving Berlin といった Broadway の有名音楽家で、それに Whiteman の band の編曲者 Grofé (その後 Grand Canyon を作曲) の曲もあった。Cf: Ethan Mordden, Make Believe: The Broadway Musicals in the 1920s (New York Oxford, Oxford University Press, 1997) 99-100. ISBN 0-19-510594-X

[11] Ethan Mordden, Make Believe, 100-101.

初演のオケ演奏は Whiteman の dance-band original のための編曲であって、人々に馴染みある classic orchestra の symphonic version (後年の編曲) ではない。この dance-band は violinists と Gershwin (piano) を除いて 15 人以下の楽器演奏者だった。(Mordden, 100 下の註)。

1924 年 concert 当日この曲は Rapsody in Blue for jazz band and piano と題された。

Mordden, Make Believe 100-1-3

Gerald Mast, P. 77

[12] Americana: 第一次大戦後、急激に大国になったアメリカは、国をあげて愛国心を国民に持たせようと、国家が動いていた。歴史、文学、演劇、映画など様々な文化メディアにおいて、過去のアメリカを掘り起こし、一般市民がアメリカを開拓し、成功し、大国を作ったのだという自画自賛と、その歴史や文化を市民に知らせ、市民が愛国心をもつようにと意図して、そうしたアメリカを語る文化メディアが奨励された。

South Carolina 州 Charleston に住む African Americans を描くのと、jazz opera だ、African Americans の音楽だという批判があるが、Gershwin は American music, American opera と呼ぶことに拘った。African American の人々がアメリカ人でアメリカ音楽を歌っていると思う、ロシアから移民してきたユダヤ系アメリカ人の Gershwin の思いがある。

[13] Charleston は South Carolina 州の都市で、1670 年にイギリス人が移民し始め (Charles II の時代) 植民が始まり puritans ではなく Catholic の富裕階級資本家が植民地を開いた。アメリカでも最も古い植民地で、西アフリカからの黒人を輸入し、農園の奴隷として労働させた農園の栽培物の輸出貿易による最も富裕な都市の一つになった。また奴隷貿易により多様な人種的コミュニティとなった。奴隷貿易でもまた栽培されたコメ、綿花などの輸出でも全米でも 5 指以内の大きな港を抱え、大農園を中心に町が栄えた。

西アフリカからの黒人が多いだけに、アフリカの生活そのままに黒人が自然発生的に歌ったり踊ったりする黒人音楽、黒人のダンスが Jazz Age には都会まで進出し、当時の " Charleston " はこの町から New York に全米に広がったのである。Gershwin が最初に黒人音楽として模倣したのは " Charleston " (ダンス音楽) であった。

[14] Charleston に来た黒人は西アフリカの Angola 出身と言う説に従うと、この Angola から来た人々を gullah people と呼び、彼らが話す言葉、西アフリカ系の言語をガラー語、ガラー英語 Gullah [-English] と言う。聞き覚えた単語だけを並べる文法のない言葉 pidgin 英語ではない。文法はアフリカで使った母語を使い、Charleston で聞き覚えた英語をはさんで会話する。アフリカ言語彙もあり。こうした文法もしっかりした地域語はフランス系の New Orleans での、アフリカの文法にフランス語の単語をはさむクレオール語がある。この Charleston の Gullah English もクレオール語の一種である。

[15] Robert Todd Duncan (1903-1998) は、アメリカの主要な歌劇団 (City Opera) で歌った最初のアフリカ系アメリカ人。彼は、Kentucky Danville の garage owner の John Duncan を父としてドイツのフランクフルト生まれの音楽教師 Lettie Cooper を母として生まれた。Todd Duncan は Indianapolis の Butler

大で BA を、Columbia 大 (教員養成学部) で音楽の MA を取得。Washington の黒人大学 Howard 大で教えていた (1930-35)。

彼が New York City Opera の団員なのは、MET が長く黒人歌手を雇わず (85 年まで)、City Opera がプロ・オペラ歌手として働く唯一の場所だったから。

彼は、Charleston のゲットーに住む黒人達とはまったく違う環境で育ち、知識階級として生きたわけだが、それでも、「1 番好きな曲は spiritual です。Spiritual は私の心の奥深くにあり、意味深い曲です。Spiritual はまるで私の存在の奥底から出て来るように思います」。この言葉は非常に興味深い。Porgy and Bess でも spiritual の演奏が舞台の華であった。また、過去の Porgy and Bess を歌った歌手達の経歴を見ると音楽大学で学んだ人も多いが、実はその前に教会の聖歌隊で歌っていて、オペラの道へ進んだと言う歌手が多い。

[16] Alexander Smallens (1889 - 1972) ロシア出身のアメリカ人指揮者そして音楽監督。セント・ペテルスブルグに生まれ、アメリカに子供時代に移民。New York Institute of Musical Art で学び、1909 年にパリ音楽院 (Conservatoire) に留学。帰国後、多くの交響楽団やバレエ団、オペラ団などの指揮で活躍した。1934 年、Thomson's Four Saints in Three Acts 初演を指揮し、1935 年 Gershwin's Porgy and Bess 初演、さらに 1942 年 Porgy and Bess 再演を指揮したことで有名。1952 年の Leontyne Price と William Warfield の欧州親善ツアーでの Porgy and Bess の指揮も有名。

初演の代わりに 1942 年の Smallens 指揮の Todd Duncan と Anne Brown の歌を聴くと Todd Duncan の声は bass baritone でも、明瞭で甘く美しい声。Anne Brown も若いので (20 歳ぐらい)、lyrical で軽い声で美しいが、Bess という妖艶なそして悲劇性をもつ女性の歌にはほど遠い。二人の still 写真も「若い」恋人と見えた。

CD: DECCA presents Selections from George Gershwin's Porgy and Bess. Featuring: Todd Duncan (Porgy), Anne Brown (Bess), The Eva Jessey Choir and the Decca Symphony Orchestra and Director of Alexander Smallens (Broadway Gold)

0 0881-10520-2 Decca ©1992. 1952, 1942, 1940 の録音。MCA Records. Inc.

[17] Porgy and Bess 初演の悪評。Alpert, 121-2.

だが、今となっては Gershwin が生み出した音楽は、それまでのオペラの音楽を一步進めるレチタとアリア、演奏の他に有声、無声の音楽が結びついて場面を作りだす非常に交響乐的味わいがある音楽で、聞きごたえがある。とかく黒人音楽の味わいを捨てたと批判されたが、黒人音楽家が 80%本物というほど、独りの作家が作ったなかでは黒人音楽も、本物らしいもの。

Cf. Geoffrey Block, *Enchanted Evenings: The Broadway's Musical from Show Boat to Sondheim*. (New York Oxford: Oxford University Press, 1997) P. 60.

[18] Columbia 盤 LP Engels 指揮。Sony CD 録音時の liner's note によると全 180 分、録音後全部聞いて 3 時間だったと言及。つまり Liner's Note は 1951 年のままだが、CD 自体は 3 枚セットは同じでも、1998 年 Sony が販売する際、cut され 157 分になったことが明らか。

[Disc 案内では、Disc 1 が 67 分 01 で Disc 2 は 62 分 41。この CD Booklet には「完全版」だけに、1935 初演版の words & score も文尾に著作権許可の文章があり、「完全」レチタとアリアの英語がある唯一の CD Booklet で多いに役だった。しかし CD の音楽短縮は大きく、2004 年 Naxos の CD より短縮。1998 Sony 販売 CD]。幕分けも 3 幕で、180 分。だが、入手した CD は 157 分に短縮されている。1998 Sony CD Engel 指揮から判断すると主役 Lawrence Winters と Camilla Williams は共に New York City Opera の団員。後 2002 年 Live from Lincoln Center の歌手も NYCO であることから、MET がいかに保守的であったか分かる。欧州歌劇場は MET より早く公演している (英語公演でなく、歌劇団本拠地の言語で)。Cape Town Opera は毎年公演する (英語で)。現在入手できる同じ Lengel 指揮の短縮版オペラ CD (1998 Naxos) には、Robert Russel Bennet 指揮 (RCA Victor) 当時の MET 歌手 (Risè Stevens, Robert Merrill) の

Porgy & Bess Highlight の豪華な付録 (bonus track) つき。

CD 表紙のタイトル : George Gershwin Porgy and Bess Porgy: Lawrence Winters. Bess: Camilla Williams. Sportin' Life: Avon Long. 以下省略。 Orchestra and J.Rosamond Johnson Chorus · Lehman Engels Recorded 1951.

[1] Sony 版 Orchestra conducted by Lehman Engels

Produced by Goddard Lirberman (表紙や liner note は 1951 原版だが、CD は [2] Naxos より短縮)

Materworks Heritage opera series.2 CDs

Disk 1. 67:01 Disk 2. 62:41.

Recorded at Columbia NY Studios, on April, 1951.

Originally released by Sony Music Entertainment Inc.

©1998 Sony Music Entertainment Inc.

[2] Naxos 盤 Columbia OSL-162. Great Opera Recordings

CD 1. 77:36 CD 2. 79:09. ©2004. NAXOS Historical 8-110287-88

[19] Europe Tour Berlin 版 (1952) Porgy and Bess --- Leontyne Price · William Warfield · Cab Calloway Deutschlandradio Kultur. Live Recording: Berlin, 1952.

Leontyne Price - Bess. William Warfield - Porgy. Cab Calloway - Sportin' Life. John McCurry - Crown. Helen Colbert - Clara. Chorus: Eva Jesseye Chor. RIAS-Unterhaltungsrchester, Berlin. Alexander Smallens conductor. 139m. 1st Master Release Audite 23.405. Deutschlandradio Kultur 4 022 143 234056 (公演 : September 21, 1952) ©2008

Live Recording of the Guest Performance at the Berliner Festwochen in the Titania-Palast, Berlin.

[20] Houston CD. Highlights from Porgy and Bess. Ira Gershwin and DuBose Heyward. Produced and Presented on stage by Sherwin Goldman. Houston Grand Opera.

Starring Don Ray Albert (Porgy), Clamma Dale (Bess), Wilma Shakesnider (Serena), Music Director and Chorus Master: John DeMain. Production Directed by Jack O'Brien. Produced for Records by Thomas Z. Shepard.

Recorded in RCA Studio, NYC, on November 22-26, 1976. Digitally Remastered in BMG/RCV Studios, New York. Total Playing Time: 55:30 (ASCAP). 完全版は 180 分超。RCA Victor. ®BMG Music ©1980 BMG Classic. (P) 1977 BMG Music. 0 7863-54680-2.

名演で、演劇的にも素晴らしい。特に Clamma Dale に感嘆。現在でも Houston は非常に珍しい公演のアメリカ初演を頻繁に行うし、現代作品の世界初演も、海外の良質な評判公演も MET より早く行い、また若手歌手養成にも熱を入れている。

[21] New York City Opera の公演映像。本文で述べた Crown の演技力には感心したが、Lister (Bess) も Porgy への愛が明らかに示され、感動的。

HGO の名高い DeMain の指揮だが、180 分超だった上演時間が、この City Opera では 160 分以下なのは残念。

Porgy and Bess: Live From Lincoln Center (2002)

Director :Tazewell Thompson. Conductor: John DeMain

Cast Porgy: Alvy Powell. Bess:Marquita Lister. Clara: Adina Aaron. Crown: Timothy Robert Blevins.

この公演の producer, Goldman は 1976 年 HGO executive producer.

今回の 3 歌劇場共同制作のオランダ公演 (2019 年 DNO) で Adina Aaron は Bess を歌う。非常に若くきれいな声で美貌である。

Soprano の Marquita Lister (1961 生) はこの公演以来、世界的名声をもつ。彼女の強く心に訴え、正確で知的な技術が音楽批評家に高く評価され、世界中の有名歌劇場で歌っている (リリコ・スピントの役柄

を歌い、Bess 役以外に得意な役は Aida と Salome。

前奏の間に (3 分) jazz piano (演奏の黒人) に合わせ dance する黒人男女。Trevor Nunn の opening より短縮版。

以下に Porgy and Bess のこの公演賞賛の review の要約を和訳。

Cf. from Soaring passions for Beleaguered Denizens of Catfish Row

By Anthony Tommasini New York Times March 5, 2002

P & B の作者は Catfish Row の下層階級の生活における人種差別と既成概念による非難に戦わねばならなかった。また Gershwin は、ユダヤ教、Broadway の歌の伝統、1920 年代の欧州のモダニズムへの魅惑 (特に Berg を手本に)、さらに South Carolina の黒人音楽 (民俗音楽) と文化への愛好という種々の音楽的関心を、一つの音楽的まとまりに統一しようとした。この無理な課題はオペラの欠陥を生み出しているが、それでも天才的ガーシュインの驚異的な音楽的才能に心とらえられ、彼がオペラに与えた真実らしさに感嘆してしまう。

[22] San Francisco Opera DVD. The Gershwin's Porgy and Bess.

Conductor: John DeMain. Stage Director: Francesca Zambello.

Eric Owens: Porgy. Laquita Mitchell: Bess [髪は赤い].

Lester Lynch: Crown. Chaucery Packer: Sportin' Life

Artwork and Editorial ©2014 EuroArts Music International GmbH EuroArts 205963. 8 80242 59638

Moby Dick/ Show Boat と 3 演目セットの American Opera

Show Boat (2014 年) DVD

Jake を演じた Eric Greene は 2018 年 ENO で Porgy を歌った。

Zambello はボネルの助手を務め欧州で debut. Houston (Fidelio の演出) で米 debut.

[23] Trevor Nunn 演出。The Gershwins' Porgy and Bess. Glyndebourne Opera Festival: Porgy and Bess 公演 (1986)。

Sir Simon Rattle 指揮、London Philharmonic Orchestra。1986 年公演。

歌手 : Porgy: Sir Willard White, Bess: Cynthia Haymon, Jasbo Brown: Wayne Marshall, Clara: Harolyn Blackwell, Crown: Gregg Baker.

公演音声と studio TV 用映像 (TV 放映は 1993) がこの映像の DVD (©2001 EMI 7 24349 24969)

Recorded February, 1988, London, Abbey Road Studio Nr. 1. 1989 EMI Records Ltd. 録音音声の CD (1989 年発売)。

[24] Berliner Philharmoniker Concert. Sir Simon Rattle 指揮・芸術監督 17 September, 2012

George Gershwin's Porgy and Bess (Concert Performance) 201m.

Sir Willard White Bass-Baritone (Porgy), Latonia Moore Soprano (Bess), Howard Haskin Tenor (Sportin' Life), Andrea Baker soprano (Serena, Robbins Wife), Cape Town Opera Voice of the Nation (Residents of Catfish)

Albert Horne Chorus Master

Rattle (1955 生) は、Glyndebourne Opera の主役 Willard White の他、優れた新鋭のオペラ歌手達が歌う演奏会形式の公演を行って豪勢、壮観と評された。P & B のこの演奏は Rattle の経歴で turning point と言われる。20 世紀の作品として、' Leaving Home ' (DVD) での 20 世紀音楽の最初としての Gershwin の Rhapsody in Blue を語る。Rattle の指揮するオケは、DeMain より派手な (アメリカ的な、) 華麗な演奏と言われる。

[25] Diane Paulus 制作演出の公演。Sondheim に Gershwin's Porgy and Bess という公演題名は、いかにもオペラみたいだが、実は musical だからよくないと批判された (NYT)。Musical と言ってオペラのような作品を書いている Sondheim が言うのは面白いと話題になった。

Gershwin's Porgy and Bess

Music by George Gershwin; Lyrics by DuBose Heyward, Dorothy Heyward and Ira Gershwin; Adapted by Suzan-Lori Parks and Diedre Murray; Musical Director: Constantine Kitsopoulos; Music orchestrated by William David Brohn and Christopher Jahnke

Directed by Diane Paulus

youtube で Tony 賞授賞式の show performance や TV 放映の映像・いずれも ' Bess, 'Yo' Is My Woman '

CD: The Gershwin's Porgy & Bess: New Broadway Cast Recording

Cast: Audra McDonald (Bess) Norm Lewis (Porgy) David Alan Grier (Sportin' Life) David Boykin (Crown) Clara (Nikki Renee Daniels) Jake (Joshua Henry) Serena (Bryonha Marie Parham) Maria (Natasha Yvette Williams)

Orchestra conductor: Constantine Kitsopoulos

P.S. Classics ©2012 ASIN : B007FEHA34

- [26] この公演は、Timothy Sheader 演出, Katrina Lindsay 美術：衣装 & 装置、Liam Steel 振付という Broadway とは別の London のスタッフにより、完全に Musical として公演された。Timothy Sheader (1971 Yorkshire 生) は Royal Shakespeare Company の演出助手を務めた後、Open Air の演劇演出家として 2007 年に登場し、2008 年公演から責任者。この舞台は音楽監督も英国人で Andrew L. Webber の『オペラ座の怪人』の編曲と映画の指揮者 Simon Lee (1957 生) であるので、Diedre Murray の翻案曲をさらに、Lee が手直ししたかもしれない。女優は英国人で Nicola Hughes (Bess), Jade Ewen (Clara), Golda Rosheuvel (Serena) が歌ったが、主要男性 3 役は皆米国人で、Phillip Boykin (Crown) は 2012 年 Paulus 版に出演、さらに Cedric Neal (Sportin' Life) は今回の ENO, 2018 の歌手である。Porgy を歌う Rufus Bonds Jr. は Broadway で Rent, Parade 最近作 Once on this Island など出演。

Cape Town Opera について参照。Millie Taylor & Dominic Symonds, Studying Musical Theatre: Theory and Practice. Palgrave Macmillan, London. ISBN: 978-1-137-27094-8 paperback., 66-69. Youtube に映像あり。

- [27] 上杉忍著『アメリカ黒人の歴史 奴隷貿易からオバマ大統領まで』(中央公論新書, 2020) p. 60.

- [28] 幕間の映像で、スタジオで皆が、dancer も歌手も、コーラスも一緒にダンス振付の Camille A. Brown の指導を受け、ダンスの動きを練習している。この映像で、人形を抱いた Jake 役 (MET LV の録画日とは別の CD で歌う歌手 Ryan Speedo Green) も踊っていた。Brown は彼女の振付について、すべて、黒人が日常の暮らしに音楽を聴いて自然に動き出す動きをダンスにしたと語る。

- [29] Golden Schultz は South African (Cape Town 生) だが、Cape Town 大を出て Cape Town Opera で歌い、2012 年バイエルンで『フィガロ』の伯爵夫人、2015 年ザルツブルクで『バラの騎士』のソフィー、2016 年グラインドボーンでまた伯爵夫人を歌っている。ミュンヘン在住というので、African American ではない。MET デビューは 2017 年『魔笛』のパミーナ。Cf. ' Summertime ' の歌について。Crawford, Summertime 383. Mast, 85.

- [30] Donovan Singletary, Bass Baritone. 最近 Lindemann Young Artist Development Program の養成を終えたばかりというのに、明るく透明な美しい声で、抒情的にも力強くも歌えるし、個人的にはこの舞台で 1 番の歌い手と思った。『フィガロの結婚』のフィガロ、『ドンジョヴァンニ』のレボレロを歌う。

- [31] Porgy を歌う Eric Owens (1970 生 Curtis 音楽院 MA 1994-6) は音楽好きで幼時から piano を弾き、次にオーボエ奏者となるが、音楽大学後 Houston Grand Opera で Aida の Ramfis を歌い、2005 年 SFO でも同役で debut し、2009 年 Porgy and Bess (DVD) の Porgy を歌い、名声をあげる。Doctor Atomic の Grove 役で MET debut (2008) 以来、立て続けに MET で古典オペラ、ワーグナーにも出演するヴェテランの bass-baritone.

- [32] この役 Serena を 3 歌劇場で歌う Latoria Moore (1979 生) は、今回の MET 公演でも実力と名声で最高の歌手。MET (2012 初演) と英国 CG (2012) でも Aida を歌って debut した。豊かで柔らかい音色をもち、輝かしい高音を歌い、何オクターヴも歌えるソプラノと評される。また 2012 年ベルリンフィル演奏会 Porgy and Bess で Bess を歌って好評。黒人の聖歌隊で歌っていた後 Opera デビュー。2016 年 NY City Opera で Tosca, 2016 年 San Diego で Madama Butterfly を歌ったから、高音でも強く美しい声。
- [33] Serena の哀悼の歌。
歌は 32 小節から溢れだし、繰り返し生起する leitmotifs や recitatives や歌に織り込まれた reprise など場面に歌がはめられているのではない。場面全体が完全に織り込まれた音楽的流れから作曲されている (Mast, 84)。Cf. Richard Crawford, *Summertime : George Gershwin's Life in Music*. (W. W. Norton & Company, 2019), P. 368.
- [34] Angel Blue. オペラ歌手だけでなく crossover artist でもある。高音域は軽々と転がる声で、中音域は色っぽく美しい音色で、Leontyne Price の再来と言われる。これは褒めすぎで、Pops 界で有名なだけに美しいが、Price に比べると、若いせいかわかぬオペラ歌手 Price の強弱合わせも感情豊かな声の魅力には届かない。これまで Violetta, Masetta, Micaela, Lucia, Liu など可憐な抒情的な役を歌い、2017 年に MET で La Bohème の Mimi を歌って debut。SFO (2009) で Clara を歌った (DVD)。しかし 2018 年 Seattle で Bess を歌った。
- [35] Pollack, 582. Crawford, 424.
- [36] Block, 81.
- [37] Block, 81-2.
- [38] MET の名歌手 Denyce Graves は (1964, Washington 生)、Carmen で MET の舞台 (1995) を踏み、絶賛され、大人気だった。Dencyce Graves は、Catfish Row の住民をいつも母親のように世話する Maria を歌う。Maria が Bess を麻薬に誘う Sportin' Life を追い出す recitativo が rap のように聞こえ、印象的。
- [39] Frederick Ballentine は (Virginia 州生。Washington National Opera 研修を卒業したばかり)。Carmen のホセ (Anapolis Opera, Houston Grand Opera 2020 reprise) でデビューし、The Magic Flute [Monastatos] も歌った。
- [40] Crown を表す音楽 (Block, 81) (Crawford, 407) この映像の Crown は Timothy Robert Blevins。
- [41] Alfred Walker (New Orleans 生。Dillard University, Loyola University 卒) は Crown 役に合う暗い声の bass-baritone で、響きわたる声に迫力がある。Porgy が彼のことを 'hound dog' と悪口を言うが、単なる猟犬ではなく、俗語で「セックスのことばかり考えている男」とあり、さらに 'dog' にも「卑劣なやつ」という意味もあり、まさに Crown を指す。Crown は欲望でぎらぎらした、意地悪い男だが、Alfred Walker の声は豊潤で柔らかな声で、陽気でもある。彼の歌 'Red Headed Woman' は舞台短縮のために省略もされる。性的言及 (俗語) があまりに明らさま過ぎる。
だが Crown は、アリアよりドラマでの重要性が高いとみえる。
Alfred Walker は Eric Owens より若く、MET での出演回数はまだ少ないが、2017 年に MET で '魔笛' の弁者を歌った。Seattle (2008 年) debut 以来、人々に羨ましがられるような bass-baritone の人気ある役柄を絶え間なく世界中で歌っていると評される。Chicago (2014) や LA (2020) で Porgy を歌い、Seattle Opera (2018) では Angel Blue と歌った。さらに MET で La Bohème (2021) のマゼットの予定もある。
- [42] Alpert, *The Life and Time of Porgy and Bess*. 83. Carmen は地方色を描いているのが、一番好きな点であると Gershwin は語る (83)。Boris Godunov も演劇としての影響力と、民謡の合唱がドラマに不可欠になっている事から、好きなのだと言った (p. 83)。
Gershwin は、Porgy and Bess は Carmen のロマンスに似ているオペラだと言った (p. 89)。
- [43] 他の作曲家 Ravel など当時有名な作曲家に会う度、オケやオペラの総譜の書きかたや対位法を教えて欲しいと頼んでは、拒絶されたが、ベルクは例外的に親切で自身の写真をくれ、感激した Gershwin はピアノの

上に彼の肖像写真を死ぬまで飾っており、『ヴォツェック』のオペラ総譜を宝物にしていたという。

Ravel 以外の逸話もある。ロシアに行って彼のもとで管弦楽法を学ぶのが一生の夢だと通訳してもらったが、ロシア人作曲家グラスノフは「対位法も知らないのに」と言った。ジョン・ペイザー著『もう一つのラブソディ ガーシュインの光と影』(小藤隆志訳) p. 162-163. (青土社、1994) The Memory of All That: The Life of George Gershwin by Joan Peyser ©1993

しかし、初演批評では悪評を書いた音楽批評家 Olin Downs が後で、Porgy and Bess には「本当の対位法的な完全無欠のひらめき」があると訂正した。(Block, 65)

音楽大学を出たクラシック音楽家でないと自分でも思ったので、オペラ作曲の頃には Schillinger に個人指導を受けていた。

Gershwin は謙虚だったという逸話を語る。Herms Pan, "Fred Astaire and Choreographers", (TAP!, 82-83) Rusty E. Frank, TAP! The Greatest Tap Dance Stars and Their Stories 1900-1955, Da Capo Press: New York., 1990. ISBN 0 306-8063-5.

Herms Pan は Astaire 主演の musical film (Shall We Dance, 1937) の振付家で、この撮影中、作曲の Gershwin と親しくなった。

[44] Alpert, 59.

ペイザー、『もう一つのラブソディ』、333-4.

[45] Alpert, 139.

[46] Alpert, 139.

[47] Pollack, 571.

[48] Pollack, 597.

[49] Alpert, 167.

[50] Pollack, 571.